

國際交流基金 令和3(2021)年度 年報

THE JAPAN FOUNDATION

2021-2022

日本の友人をふやし、 世界との絆をはぐくむ

国際交流基金は、「文化」と「言語」と「対話」を通じて日本と世界をつなぐ場をつくり、人々の間に共感や信頼、好意をはぐくんでいきます。

独立行政法人国際交流基金(JF)は、世界の全地域において、総合的に国際文化交流事業を実施する日本で唯一の専門機関です。「文化芸術交流」、「海外における日本語教育」、「日本研究・知的交流」の三つの分野を柱として、本部、京都支部、二つの附属機関(日本語国際センター及び関西国際センター)、さらに25の海外事務所をベースに活動しています。世界と日本の人々が、お互いの理解と絆を一層深められるよう、さまざまな交流をつくり出していきます。

文化 文化芸術交流

海外の異なる文化や芸術に触れる感動は、言語の違いを越えて、相手への興味と共感を生み出します。日本の文化・芸術を幅広く世界に紹介し、人々の心の距離を近づけます。

言語 海外における日本語教育

海外の人たちに日本語を知ってもらうことは、日本への親しみや理解を広げるきっかけとなります。世界中で多くの人に日本語を学んでもらえるよう、各国の日本語学習環境の整備を進めています。

対話 日本研究・知的交流

海外での日本研究を支援することは、深い相互理解へとつながります。また、世界共通の課題についてのシンポジウムや共同プロジェクトを通じ、有識者同士の交流を促進します。

FIELDS

「文化芸術交流」、
「海外における日本語教育」、
「日本研究・知的交流」の三つのフィールドで
事業を展開しています。

ORGANIZE

企画する・主催する

展覧会や舞台公演、国際会議、海外の文化人の招へい等、文化交流が行われるための機会を自ら創出しています。

SUPPORT

助成する・支援する

文化交流のために活動する人々に、資金の一部を提供したり、多くの人の活動を容易にするツール、機会や場所を提供する等、文化交流活動を側面から支えます。

APPROACHES

文化の幅広い分野で活動する人々をサポートし、継続的な交流が可能となるような機会の創出と環境づくりを行います。

NETWORK / INFORMATION

ネットワークをつくる・交流の土台をつくる

文化交流活動を行う人にとって必要な情報や素材を収集したり、人と人のネットワークをつくる等、国際文化交流の土台づくりとすそ野の拡大を継続的に行っています。

JAPAN FOUNDATION HISTORY

1972	国際交流基金(The Japan Foundation)設立
1973	国際交流基金賞創設
1984	日本語能力試験(JLPT)開始
1985	国際交流基金地域交流振興賞創設(2005年より国際交流基金地球市民賞)
1989	日本語国際センター(埼玉県)設置
1990	アセアン文化センター開設
1991	日米センター(Center for Global Partnership)設置
1995	アセアン文化センターから旧アジアセンターへ改組(~ 2004)
1997	関西国際センター(大阪府)設置
2003	独立行政法人国際交流基金となる
2006	日中交流センター設置
2014	アジアセンター設置
2019	国際交流基金日本語基礎テスト(JFT-Basic)開始
2022	国際交流基金設立50周年

THE JAPAN FOUNDATION
2021-2022

Contents

- 01 国際交流基金(JF)の概要 >
- 04 理事長からのごあいさつ >

JFの事業

- 05 PICK UP FY 2021 >
- 07 文化[文化芸術交流] >
- 11 言語[海外における日本語教育] >
- 15 対話[日本研究・知的交流] >
- 19 アジアセンター >
- 22 顕彰事業 >
- 23 2021海外事務所の取り組み >

資料編

事業実績

- 27 文化芸術交流 >
- 28 海外における日本語教育 >
- 29 日本研究・知的交流 >
- 30 アジアセンター >
- 31 民間からの資金協力 >
- 33 財務諸表 >
- 36 世界の拠点紹介 >
- 37 諮問委員会等／組織図 >
- 38 ウェブサイト・ソーシャルメディアのご案内 >

理事長からのごあいさつ



前年度に続き、2021年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた1年となりました。このような状況の中、国際交流基金（JF）は「文化」と「言語」と「対話」を通じて日本と世界をつなぐ場を作り、人々の間に共感や信頼をはぐくむための機会を絶やすことのないよう、IT技術の活用等さまざまな工夫を模索しながら、国際文化交流事業を着実に進めて参りました。

「文化」の分野では、日本の優れた現代演劇から、ダンス・パフォーマンスや伝統芸能にわたる多彩な92の舞台公演作品を多言語字幕付きでオンライン配信する「STAGE BEYOND BORDERS — Selection of Japanese Performances—」を実施し、従来なかなか鑑賞機会を得られなかった方々も含め、111か国・地域から950万回（2021年度末時点）を超える視聴アクセスを頂きました。また、世界25か国を対象に2022年2月に2週間にわたって開催した「オンライン日本映画祭2022」では、クラシックから最新作まで20作品を配信し、のべ32万人が視聴いたしました。一方、感染症対策を講じて実施したリアルな事業として、例えばドイツとポーランドでの日本美術展、ヴェネチア・ビエンナーレ建築展（イタリア）への参加に加え、海外巡回展セットを活用した展覧会等を通じ、世界の人々に直に日本文化に触れていただく機会をお届けいたしました。

「言語」の分野では、気軽に日本語を楽しんでいただけるよう「JFにほんごeラーニング みなと」にて多彩なオンラインコースを提供し、利用者登録は世界199か国・地域29万人余（2021年度末時点）に上りました。また、主に就労のために来日する外国人が遭遇する、生活場面でのコミュニケーションに必要な日本語能力の測定を目的とする「国際交流基金日本語基礎テスト（JFT-Basic）」を日本及び海外9か国で実施したほか、これから日本で働きながら生活することを目指す海外在住の外国人が、生活面で必要な日本語のコミュニケーションを自習できる「いどころ日本語オンラインコース」

を新たに公開いたしました。

世界で高まる日本語への関心の状況については、1974年より定期的に実施している「海外日本語教育機関調査」を通じて把握に努めており、2021年に実施した最新調査結果を2022年度中に公開する予定です。現地情勢を踏まえた調査分析報告を今後のJFの事業計画に活かすのみならず、多くの皆様にもお役立ていただき、新たな連携が生まれることを期待いたします。

「対話」の分野では、2020年度は対日理解の促進に貢献する世界各国・地域の日本研究者が、日本に滞在して研究を行うためのフェローシップの提供による支援を、コロナ禍のため一部例外を除いて中止とせざるを得ませんでした。しかしながら2021年度には研究者が日本入国に際して必要な防疫措置を取るよう丁寧なサポートを行い、150名の研究者の訪日を実施する等、各国との人的往來の再活性化に向けて動き始めております。

2022年はJFが特殊法人として設立された1972年から数えて50周年の節目となります。我が国を取り巻く国際情勢の変遷や、日進月歩の技術革新の中、文化を通して、日本と世界をもっと身近にするべく歩んできた自らの来し方を改めて振り返りつつ、混沌とする現在の国際情勢の中で、我が国への信頼や共感に裏打ちされた世界の人々との連帯の強化に貢献すべく全力を尽くしてまいり所存です。

今後とも引き続き皆様のご理解・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2022年9月
独立行政法人国際交流基金 理事長
梅本 和義

PICK UP FY 2021

長引くコロナ禍でも「日本の友人をふやし、世界との絆をはぐくむ」というJFのミッションを遂行するため、2021年度もオンライン等を活用しながら工夫を凝らした事業を展開しました。その中でも特に注目を集めた事業の一部をご紹介します。



STAGE BEYOND BORDERS —Selection of Japanese Performances— 世界の人々を魅了

日本の舞台作品を多言語字幕付きで配信。2021年度には計92作品を配信（うち50作品は、コロナ禍で苦しむ公演団支援のために生まれた「緊急舞台芸術アーカイブ+デジタルシアター化支援事業(EPAD)」実行委員会と共催で実施）、111か国・地域で視聴され、総視聴回数は950万回に達しました。

日本語学習番組

『ひきだすにほんご』

Activate Your Japanese!』

日本で働きたい、生活したいという方を主な対象に、日本語及び日本の社会・文化を紹介する番組として、NHKエデュケーショナルと共同で制作。NHKワールドJAPANを通じ全世界へ向けて放送・配信を開始しました。

メインコーナーでは、ホテルで働くために来日したベトナム人、スアンの成長をつづる



©2022 The Japan Foundation / NHK Educational Corporation



「オンライン日本映画祭」での、映画『いとみち』の横浜聡子監督と主演の駒井蓮さんのインタビュー

オンライン日本映画祭2022

2020年度に新たな試みとして開始した「オンライン日本映画祭」を、2022年2月、対象国を25か国に拡大し、2週間にわたって開催しました。幅広いラインナップの日本映画20作品を15言語字幕付きで無料配信し、映画の視聴者数はのべ32万人、再生回数は54万回に及びました。各国で作品同時鑑賞会やゲストを交えたイベントを開催し、オンラインを介した交流も大きな盛り上がりを見せました。



オンライン読書会

日本語学習支援活動の一環として、ローマ、ケルン、マドリッド、ブダペストの拠点が合同でオンライン読書会を開催。全国各地から参加した中上級学習者たちが、日本語を共通言語として、日本の文学作品についてディスカッションを行いました。

CGP×「朝日地球会議2021」

「朝日地球会議2021」にて特別共催セッションを開催。ポストコロナの社会をテーマにした対談やパネルディスカッションをオンラインで配信し、6000人以上がリアルタイムで視聴したほか、アーカイブ動画も1万人以上の視聴者を獲得しました。



朝日新聞社提供

写真右から福岡伸一氏(青山学院大学教授、米国ロックフェラー大学客員研究者)、マイケル・サンデル氏(ハーバード大学教授)、長野智子氏(キャスター、ジャーナリスト)



6名の外国人が挑戦した仲居修行の修了式

テレビ番組紹介事業

東海テレビと協力して制作した、6人の外国人が老舗旅館で仲居修行に挑戦するドキュメンタリー番組『日本のおもてなしに挑戦～ドラマ「花嫁のれん」番外編～』をアフリカ、東欧、中南米の7か国に提供。番組視聴環境の変化に対応するため、一部の海外テレビ局向けにはテレビ放送に加えて、インターネット配信も可能なかたちで提供を行いました。

JOIプログラム×ニッポン放送

『アメリカ南部・中西部・山岳部あるある!?!』

「JOIプログラム」の20周年を記念して、お笑いタレントの厚切りジェイソン氏をMCに、ラジオ番組「オールナイト・ニッポン」の中で1か月にわたりコーナー番組を放送。さらに特別編として、YouTube番組の配信を行いました。



ラジオ番組キービジュアル



番組パーソナリティの厚切りジェイソン氏



「日本料理と食文化についてーおせち料理ー」
講師：おおはしなおこ氏(日本料理研究家)

中国「ふれあいの場」 オンライン日本文化セミナー

中国の学生達の関心が高いテーマ(2021年度は通訳・声優・文学創作・和楽器・和菓子・日本料理)に関するオンラインセミナーを中国「ふれあいの場」において実施しました。

文化

文化芸術交流

海外の異なる文化や芸術に触れる感動は、言語の違いを越えて、
相手への興味と共感を生み出します。

日本の文化・芸術を幅広く世界に紹介し、
人々の心の距離を近づけます。



上:「Rimpa feat. Manga」展(ミュンヘン、2021~2022年)MFK, Foto: Nicolai Kästner
中:『日本のおもてなしに挑戦~ドラマ「花嫁のれん」番外編』
下:大学生交流事業(ジャオジャオ×西寧ふれあいの場)2022春

日本の豊かな文化芸術を海外へ紹介

伝統芸能から現代アートまで幅広く、舞台公演、展覧会、翻訳出版、映画、テレビ等さまざまな形で魅力的な事業を行い、豊かな日本の文化芸術を世界に向けて紹介します。人と人が顔を合わせて交流することも、人が集う催しを行うことも難しいコロナ禍が続く中、感染対策を講じながら、できる限り事業の実現を追求しました。また同時に、オンライン等を活用し、より広い層に日本の文化と芸術を届け、各国の人々との交流を深めることにも努めました。



コロナ禍中、大型展覧会を実現

ポーランドで初めて日本の戦後前衛美術をまとめた形で紹介した「集団と個の狭間で—1950年代から60年代の日本前衛美術」展は、事業の実施が難しい時期にもかかわらず、2度の延期を経て開催にこぎつけ、4万人近い来場者がありました。共催したザヘンタ国立美術館のキュレーター、マリア・ブレヴィンスカ氏の2019年度「石橋財団・国際交流基金日本美術リサーチフェローシップ」による来日調査の成果が、展覧会として実を結びました。このほか、コロナ禍後初のヴェネチア・ビエンナーレ（第17回建築展）で17万人を超える来場者を得た日本館展示「ふるまいの連鎖：エレメントの軌跡」と、日独交流160周年記念「Rimpa feat. Manga」展も開催しました。

「集団と個の狭間で—1950年代から60年代の日本の前衛美術」展
ザヘンタ国立美術館（ワルシャワ）2021年
photo: Jakub Celej / Zachęta Archive, CC BY-SA. 40 International



「8つの国際共同制作を振り返る—オンライン座談会—
～プロセスオブザーバーの視点から～」(2022年2月)
撮影：松原勇太

舞台芸術国際共同制作

前年度に新設した舞台芸術国際共同制作プログラムでは、2021年度事業として、演劇、音楽劇、オンライン劇、ダンス等多様な舞台芸術作品8件の制作に取り組みました。

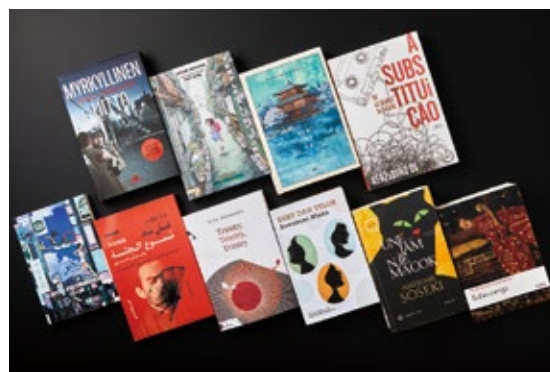
日本と海外のアーティストが新たな表現を共に模索する「国際共同制作」のプロセスを広く伝え、今後企画される国際的なコラボレーションに役立つよう、第三者がオブザーバーとして各事業の制作過程を記録し、その報告書を一般公開する新しい試みを始めました。オブザーバーによるオンライン座談会では、各プロジェクトに関する考察と国際共同制作のあり方についての議論が行われました。

本を通じた国際交流

日本の図書の海外での翻訳出版への支援を継続しています。2021年度は21か国で30件を助成し、このうち『帰命寺横丁の夏』英語版（著：柏葉幸子、訳：エイブリー・フィッシャー・ウダガワ）は、傑出した翻訳児童書に贈られる全米図書館協会パチェルダ賞を受賞して話題を呼びました。

また、世界各国での翻訳出版につなげるべく、「国際交流基金翻訳推薦図書リスト」に、新たに児童図書セクション“Lifelong Favorites”を設け、日本の子どもの本59冊を追加しました。

このほか、日本と海外の人気作家のペア3組が、コロナ禍の日常、創作に対する想いを綴り合う文通形式の書き下ろしエッセイを、ウェブサイトで公開。断絶の時代における作家たちの心の交流に、国を越えて共感の声が寄せられました。



2021年度翻訳出版助成図書（一部） 撮影：松原勇太
東野圭吾『聖女の救済』フィンランド語版（Kustantamo Punainen Silakka）、柏葉幸子『帰命寺横丁の夏』英語版（Restless Books）、三島由紀夫『金閣寺』越語版（Nhã Nam Publishing and Communications）、大江健三郎『取り替え子』葡語版（Estação Liberdade）、柳美里『JR上野駅公園口』伊語版（21lettere）、小酒井不木『死体蠟燭 他』垂語版（Mahrousa Center for Publishing, Press and Information Services）、小林エリカ『トリニティ、トリニティ、トリニティ』仏語版（Éditions Dalva）、川上未映子『夏物語』インドネシア語版（Moooi Pustaka）、夏目漱石『吾輩は猫である』アルバニア語版（OMBRA GVG）、谷崎潤一郎『細雪』ジョージア語版（Diogene Publishers）

世界各地での日本映画上映事業

コロナ禍の影響が引き続き大きい中、47か国・地域において日本映画の上映会を開催し、のべ9万3000人の観客に日本映画を届けました。コロナ禍により長期間にわたり閉鎖されていた映画館で、再開後初の上映会として実施されたプログラムもあり、各国で多数のメディアで取り上げられ、来場者や共催機関からは感謝の声が寄せられました。



マレーシア日本映画祭 オープニングセレモニー



トルコにおける日本映画祭

シンガポールでの日本映画祭

日本・シンガポール外交関係樹立55周年を迎えたシンガポールでは、2020年度に続き、映画館での上映とオンライン配信とを組み合わせたハイブリッド型の「日本映画祭 (JFF)」を開催しました。上映終了後に、Zoomを活用し、作品関係者をスクリーンに招いてQ & Aセッションを行ったり、ウェビナー機能を活用してプログラマー・トークやマスタークラスを開催したりと工夫を凝らし、ニューノーマルに対応した新しい映画祭のありようを追求しました。



シンガポール日本映画祭会場にて



山崎純駐シンガポール日本国特命全権大使(左)とケネス・タンシンガポール・フィルム・ソサエティ会長(右)

日本映画発信ウェブサイト「JFF+」

日本映画発信ウェブサイト「JFF+」では、「オンライン日本映画祭」での映画や関連イベントの配信に加え、日本映画に関わる特集やインタビュー記事を日本語と英語を中心に多言語で掲載し、さまざまな角度から日本映画の魅力を発信しました。2021年度にウェブサイトを訪れたユニークユーザー数は101万人を超え、ページビュー数は約297万回、サイトのニュースレターの配信登録者数は約12万人に上りました。 <https://jff.jp/go.jp/ja/>



日本映画発信ウェブサイト「JFF+」のトップ画像

テレビ番組紹介

日本のコンテンツが放送・配信されにくい国・地域を対象に、日本理解のきっかけとなるようテレビ番組を紹介する事業を実施。

2021年度はドラマ、アニメ、バラエティ、映画、ドキュメンタリー等、76か国・地域で、のべ489番組が放送されました。



『なつぞら』



『ハクション大魔王2020』



『日本のおもてなしに挑戦 ～ドラマ「花嫁のれん」番外編～』

日中交流センター

日本と中国の次代を担う青少年層を主な対象として、お互いの文化や生活を体験する機会を提供し、対話や協働作業を通じた相互理解の促進を図っています。これからも双方向性と協働性を重視した事業を実施し、より深く、息の長い「心と心のつながり(=心連心)」を築くことを目指します。 ※日中交流センターは、2022年4月1日をもって国際対話部に再編されました。

日中高校生対話・協働プログラム

新型コロナウイルス感染症の流行により、2021年度も渡航を伴う交流が困難な状況が続いていました。このような中でも、日中両国の高校生が、お互いの文化や社会についての理解を深め、学校生活や地域社会等、共通の課題の解決についてオンラインも活用しながら対話・協働し、両国青少年層に連帯や協力の意識が醸成されることを目的に、「日中高校生対話・協働プログラム」を実施しました。



高知県立高知東高等学校の生徒と交流する中国・黄冈市外国語学校の生徒

中国「ふれあいの場」事業

日本の情報に触れる機会が限られた中国地方都市の大学等の機関において、日本の雑誌・書籍・映像資料等の最新コンテンツの閲覧・視聴ができる「ふれあいの場」の設置を支援しています。「ふれ

あいの場」では、両国青少年が、オンラインも活用しながら、専門家による日本文化セミナーをはじめとした、さまざまな日中交流イベントを通じて交流しています。



大学生交流事業(熊貓×昆明ふれあいの場)2021秋



イベントに参加した「済南ふれあいの場」の学生たち



大学生交流事業(ジャオジャオ×西寧ふれあいの場)2022春

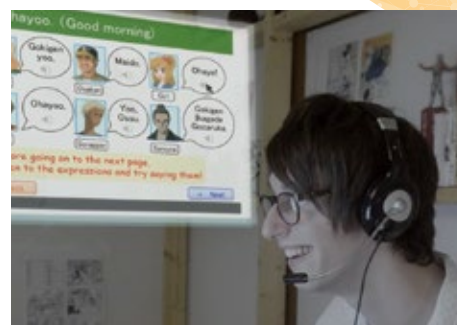
ネットワーク強化事業

日中両国の交流の担い手となる青少年間のネットワーク構築を目指し、共同作業に重きを置いたさまざまな事業を実施しています。2021年度は、両国の大学生が共同で文化イベントの企画・運営を行う「大学生交流事業」、およびビジネスを切り口に両国大学生がディスカッションを行う交流プログラム「リードアジア」をオンラインで実施したほか、日中両言語対応の「心連心ウェブサイト」の運営を行いました。

言語

海外における日本語教育

海外の人たちに日本語を知ってもらうことは、
日本への親しみや理解を広げるきっかけとなります。
世界中で多くの人に日本語を学んでもらえるよう、
各国の日本語学習環境の整備を進めています。



上:小中学校での日本語・文化学習発表イベント(ケニア)
中:「JFにほんごeラーニング みなと」での受講イメージ
下:サッカーアカデミーでの『いろいろ』紹介(カンボジア)

海外の日本語教育環境の整備

コロナ禍によるさまざまな影響を受けつつも、引き続き質の高い日本語教育が広く実施されるよう、次の事業を行い、世界各地の日本語教育環境の整備を進めました。

日本語専門家の海外派遣

海外の大学や教育機関に対し日本語教育の専門家や指導助手（41か国119ポスト）が、オンラインも活用しながら現地日本語教師への研修、教材作成・日本語教授法等の助言、教師間ネットワー

ク形成支援、教育機関への巡回指導等を実施し、コロナ禍により生じた課題やニーズに対応した支援に努めました。



ハンガリー最大級のアニメ・漫画・ゲームの祭典「MondoCon」の特設ステージにてブダペスト日本文化センターが日本語ミニレッスンを実施



パレスチナの日本語学習者を対象に、カイロ日本文化センターがオンラインにて日本語学習機会を提供

日本語教育機関支援

長引くコロナ禍に対応しつつ教育活動に尽力する世界各国の日本語教育機関に対して、電子書籍購入を含むオンラインでの事業展開も積極的に支援する助成を行いました。

また、各国の中核的日本語教育機関・団体である「JF にほんごネットワーク」（さくらネットワーク）について、新たなメンバーを迎えて102か国・地域の357機関に拡大し、特別助成を実施しました。



第36回カラチ日本語弁論大会（パキスタン）



小中学校での日本語・文化学習発表イベント（ケニア）



日本語国際センターが実施した特定技能制度による来日希望者のための日本語教授法研修

海外の日本語教師に対する研修

新たな公募プログラムとして、海外の日本語教師を対象に複数テーマを設定してオンライン研修を開始し、前年度に試行したオンデマンド教材も活用して、教授法の理論や指導のための基礎知識を学ぶ機会を提供しました。また、特定技能制度による来日希望者に対して日本語教育を行っている機関・団体の日本語教師を招へいし、生活や就労のために必要な日本語の教授能力向上を目的に研修を行いました。

海外の日本語学習者に対する取り組み

訪日困難な状況が続く中でも学習意欲を維持してもらうため、各国・地域の日本語学習者へ向けて、さまざまな日本語学習機会を提供しました。海外事務所では日本語講座をはじめとして弁論大会や日本文化体験のワークショップ、関西国際センターではオンライン関西弁講座やバーチャル日本ツアーに加えて、周辺地域の協力を得てオンラインでの一般家庭へのホームビジットも行いました。



関西国際センターが実施したバーチャル日本ツアー



BMCN年次大会 海外継承日本語教育オンライン・フォーラム

海外に在留する邦人の子等に対する日本語教育

海外に移住した邦人の子孫、外国人と日本人を両親に持つ子どもに対する日本語教育について、バイリンガル・マルチリンガル子どもネット(BMCN)の年次大会の一部を共催しました。また、同分野の課題等に関するアンケート調査を行い、その結果に基づき、海外の継承日本語教育団体に対して幼児番組DVDや日本児童図書を提供しました。カナダ、韓国、豪州、シンガポール、ドイツ、ブラジル、メキシコでもセミナー等の実施やネットワーク構築に努めました。

海外における日本語教授法及び日本語学習者の能力評価の充実

日本語普及のため、新たな教授法や学習素材を提供するとともに、日本語学習者のための日本語能力試験(JLPT)に加え、外国人材受入れのための国際交流基金日本語基礎テスト(JFT-Basic)を行いました。

日本語教授法に関する情報発信と学習素材の提供

「JF日本語教育スタンダード」は、ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)の考え方に基いてJFが開発した、日本語の学び方、教え方、評価の仕方を考えるための枠組みです。その準拠教材として、『まるごと 日本のことばと文化』について中国・ベトナムで新たなレベルの現地出版、「まるごとサイト」で提供するサポート教材の多言語化を、『いざなり 生活の日本語』についてコンテンツの拡充を、それぞれ進めました。また、日本語学習を通じて日本の社会・文化を紹介するテレビ番組『ひきだすにほんご Activate Your Japanese!』をNHKエデュケーショナルと共同で制作しました。



2021年度に出版した『まるごと』 左:「初級1」(中国版)右:「中級2」(ベトナム版)

eラーニングの開発・運営

オンライン教育に対する需要は引き続き高く、日本語学習プラットフォーム「JFにほんごeラーニング みなと」の総登録者数は199か国・地域の29万2400人と、前年度から7万人近く増加しました。また、「いざなり日本語オンラインコース」を開発したほか、看護・介護のための日本語学習サイト「日本語でケアナビ」に感染症関連語彙を追加する等、既存コンテンツの拡充にも努めました。



看護・介護の用語を集めた日本語学習サイト「日本語でケアナビ」

ブダペスト日本文化センター制作 ハンガリー語話者対象 みなと「できるA1」自習コース

日本語能力評価のための試験の実施

日本語能力試験 (JLPT) は、日本語を母語としない人の日本語能力を測る世界最大規模の試験で、1984年から実施しています。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けながらも、2021年7月試験では新規にパプアニューギニア及びメリダ(メキシコ)で実施し、国内47都道府県、海外25か国93都市で38万7371人が応募、33万5915人が受験しました。12月試験はラウトカ(フィジー)で新規に実施し、国内47都道府県、海外68か国175都市で42万210人が応募、34万8992人が受験しました。



2021年度より新規に実施されたラウトカ(フィジー)での日本語能力試験 (JLPT)

国際交流基金日本語基礎テスト (JFT-Basic) は、主に就労のために来日する外国人が遭遇する、生活場面でのコミュニケーションに必要な日本語能力の測定を目的としたコンピューターテストで、2019年に開始しました。2021年度は新たにインド、スリランカ、ウズベキスタンでテストを開始し、アジアの9か国16都市及び日本国内で3万596人(前年度1万7582人)が受験しました。

JFT 国際交流基金 Basic 日本語基礎テスト

受験対象：日本語を母語としない外国人

国際交流基金日本語基礎テスト(JFT-Basic)とは
 世界の16か国に在住する外国人が遭遇する生活場面でのコミュニケーションに必要な日本語能力を測定し、「ある程度日本語が書け、生活に支障がない程度の能力」があるかどうかを測定するテストです。

JFT-Basicの特徴

- 01 テストは原則、毎月実施。受験機会が多くあります。
- 02 在留資格「特定技能1号」の申請に使えます。
- 03 コンピューターを使用したテストで結果は受験後すぐにわかります。

詳しくはこちら！ > [JFT-Basic](https://www.jft.go.jp/jft-basic/)

プロメトリックカスタマーサービスセンター
 TEL.0120-90-7699

JAPAN FOUNDATION 国際交流基金

国際交流基金日本語基礎テスト(JFT-Basic) 国内向け広報物

Learn Japanese essential to daily life in Japan
 Learn Japanese anytime, anywhere

Free!

無料! 日本の生活場面で必要となる日本語が学べる
 いつでも、どこでも学べる

IRODORI Japanese Online Course
 いろどり日本語オンラインコース

IRODORI
 ONLINE COURSE

IRODORI Japanese Online Course

ウェブ教材『いろどり生活の日本語』をもとに開発した『いろどり日本語オンラインコース』

新たな外国人材受入れのための日本語教育事業

上記JFT-Basicを実施した以外にも、日本での生活・就労を目指す人々の日本語能力習得を支援する取り組みを9か国(中国・モンゴル・インドネシア・カンボジア・タイ・フィリピン・ベトナム・ミャンマー・ネパール)で実施しました。ウェブ教材『いろどり生活の日本語』は新たに4言語を加え計13言語となり、年間約219万件のアクセスがありました。また、同教材をもとに開発した「いろどり日本語オンラインコース」では、約5万4000人がユーザー登録をしました。各国では、日本語専門家と生活日本語コーディネーターが『いろどり』の紹介や『いろどり』教授法セミナー等を行いました。



生活日本語コーディネーターによるJFT-Basicの紹介(タイ)

対話

日本研究・知的交流

海外での日本研究を支援することは、深い相互理解へとつながります。

また、世界共通の課題についてのシンポジウムや
共同プロジェクトを通じ、専門家同士の交流を促進します。



上: JF設立50周年記念事業 パネル登壇者
下: CGP×朝日地球会議2021 第2部利他セッション

海外の日本研究・知的交流

海外における日本への理解を深めることを目指し、各国の日本研究を支援するほか、国際的な課題の解決に向け、日本と海外の人々への対話や協働の機会を設ける等、人的ネットワークの形成を促進する知的交流事業を実施しています。

“日本研究の巨人”ドキュメンタリー映像制作

『ジャパン アズ ナンバーワン』の著者であり、海外における日本理解の深化に比類ない貢献を果たしたエズラ・ヴォーゲル氏と、日本文学研究者として世界に向けて日本の魅力を発信することに生涯を尽くしたドナルド・キーン氏の伝記ドキュメンタリー映像を制作・

公開しました。両氏が日本研究に関わるまでの歴史や背景とともに、それぞれの日本研究への情熱や希望を、貴重な過去の映像資料や関係の深い方々へのインタビューを交えて振り返りました。



第3回次世代日本研究者協働研究ワークショップ

2018年度より、アジアの主要日本研究機関所属の大学院生を対象にワークショップを開催しています。2021年度は8か国・地域の16機関から21名が参加し、3か月にわたりオンラインで実施しました。さまざまな国から優れた講師の協力を仰ぎ、研究の独自性や

社会的意義、研究者としてのキャリアについて考えるとともに、協働研究の実践として地域や分野を越える模擬パネル発表を行いました。このプログラムを通じて、参加者をはじめとする日本研究者間のネットワーク形成促進も図りました。



国際日本研究シンポジウム

JF設立50周年記念事業の一環として、アジア研究協会(AAS) 2022年次大会にて、世界各地から6名の日本研究者を登壇者として招く特別パネルセッション"Strengthening Human Capital Pipelines for Area Studies – A Global Perspective"を実施しました。「日本研究の発展に向けた今後の人材育成のあり方」を主なテーマとし、カリキュラム作り・教育プログラム等の "Education"、および研究プロジェクト・手法等の "Research"という二つの側面から、各登壇者が携わる先進的な事例の発表及び議論を行いました。



JF設立50周年記念事業 AAS 2022年次大会特別パネルセッション登壇者

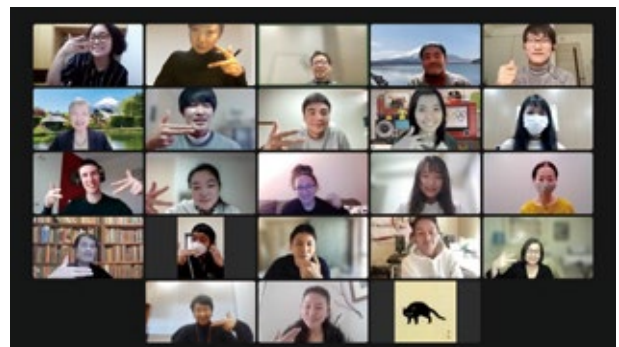
やさしい日本語ラップ「やさしい せかい」替え歌動画を世界へ

「多文化共生・インクルーシブ社会の実現のため、誰にでもわかりやすいやさしい日本語とやさしい気持ちのある世界をつくろう」とのメッセージが込められたやさしい日本語ラップ「やさしい せかい」(制作・著作:やさしい日本語ツーリズム研究会、特別協力:明治大学国際日本学部山脇啓造ゼミナール、後援:JF)。JFでは、この

ラップ作品に日本語でのオリジナル歌詞を付けて自分たちで歌った動画を募集したところ、個性と元気溢れる力作が世界中から寄せられました。審査を担当した山脇ゼミの学生と受賞者のオンライン交流会も実施し、受賞作品及びグローバル・ミックス版はJF YouTubeチャンネルで公開されています。



「やさしい せかい」替え歌動画(受賞作品によるグローバル・ミックス版)



優秀賞受賞者と明治大学学生とのオンライン交流会

日独パネルディスカッション「コミュニケーションの未来と私たち」

多様に発展し続けているデジタル・コミュニケーションといかに付き合うかについて、「コミュニケーションの未来と私たち」と題したシンポジウムをベルリン日独センターと共催しました。自分たちの個性やウェルビーイングを大切にしながら、進化するデジタル・コ

ミュニケーションを活用し、多彩な意見をもつ他者と共生してゆくにはどうしたらよいか、日独の専門家が洞察に富んだオンライン・ディスカッションを行いました。



日独パネルディスカッション 日独センターのタイトル画像



日独パネルディスカッション:日独センター パネリスト、モデレーター、司会

日米センター

日米センターは、日米両国が協力してグローバルな課題に取り組むことを目的に、1991年に設立されました。日米協働による世界への貢献と相互理解に基づくゆるぎない協力関係を実現すべく各界各層における対話と交流を促進しています。※日米センターは2022年4月1日をもって国際対話部に再編されました。



新たなテーマ領域に基づく事業展開

日米センターの設立30周年を契機として事業方針の見直しを行い、今後取り組む事業として「レジリエントな社会の構築」「社会的包摂の実現」「科学技術で豊かな社会の創造」の三つのテーマ領域を設定しました。

ウェブサイトや各種事業の機会を使い、テーマ領域についての対外的な広報・周知に努めるとともに、新たな事業方針を反映させたパイロット・プロジェクトや新規の公募助成事業を開始しました。



U.S.-Japan Network for the Future/パネルディスカッション



米国20周年記念式典



優木まおみ氏

JOIプログラム20周年記念事業

米国で日本文化を伝える「日米草の根コーディネーター派遣 (JOI) プログラム」の20周年を記念し、日米両国にて記念事業を実施しました。米国ではこれまでのプログラム参加者を対象に記念式典を開催し、ビル・ハガティ氏 (米国連邦上院議員) や山崎直子氏 (元宇宙飛行士) から祝賀メッセージが寄せられました。日本国内では、ロゴとウェブサイトの刷新を始め、派遣対象地域である南部・中西部・山岳部の魅力を深掘りするため、ミシガン州出身の厚切りジェイソン氏 (お笑いタレント) をMCに、人気ラジオ番組「オールナイト・ニッポン」の中で1か月にわたりコーナー番組を放送しました。特別編としてYouTube番組の配信も行い、ゲストには米国留学経験のある優木まおみ氏 (マルチタレント) を迎え、個人的なエピソードから海外経験の重要性やキャリアへの影響等、幅広いテーマで語ってもらいました。番組後半ではJOI経験者も交え、プログラムの魅力や体験談を通して、日本人にあまりなじみのない米国地域の魅力を伝えてもらいました。



JOIプログラム20周年記念YouTube番組キービジュアル

「朝日地球会議2021」特別共催セッション

朝日新聞社主催の「朝日地球会議2021」において2021年10月17日に特別共催セッションを開催しました。第1部では福岡伸一氏 (青山学院大学教授) とマイケル・サンデル氏 (米ハーバード大学教授) を迎えて、ポストコロナの社会について対談を行いました。第2部では「教育とケアから考える『利他』」と題し、伊藤亜紗氏 (東京工業大学教授)、白井智子氏 (新公益連盟代表理事) らを交えてのパネルディスカッションを実施。第1部では大局的な視点から日米の知識人が対話し、第2部では実務家も交えてより身近な問題に引きつけた対談となりました。



朝日新聞社提供

写真右から白井智子氏 (特定非営利活動法人新公益連盟代表理事)、伊藤亜紗氏 (東京工業大学未来の人類研究センター長)、福岡伸一氏 (青山学院大学教授、米国ロックフェラー大学客員研究者)、鈴木暁子氏 (朝日新聞GLOBE副編集長)

アジア センター



アジアセンターは、日本語教育、芸術・文化、スポーツ、市民交流、知的交流等さまざまな分野でASEAN諸国を中心としたアジアの人々との双方向の交流事業を実施・支援しています。アジアに共に生きる隣人としての共感や共生の意識をはぐくむこと、アジアの架け橋となる人材を育成することを目指しています。

アジアセンターの設立経緯

2013年12月に東京で開催された日・ASEAN特別首脳会議において、日本政府が発表した新しいアジア文化交流政策「文化のWA(和・環・輪)プロジェクト～知り合うアジア～」を実施する部署として、2014年4月にアジアセンターが設置されました。8年間に渡り、ASEAN諸国を中心としたアジアの人々との双方向の交流事業を実施・支援してきましたが、2022年4月1日をもって、同センターは組織再編されました。なお、同センターが実施してきた「日本語パートナーズ派遣事業」については、「日本語パートナーズ事業部」で継続実施されています。



「三陸国際芸術祭2021」(『髪長姫～アジアが紡ぐ笛ものがたり～』)より

日本語パートナーズ派遣事業

アジアで日本語を教える教師や生徒のパートナーとして、授業のアシスタントや日本文化の紹介を行う日本語パートナーズを現地の教育機関へ派遣しています。

2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で派遣が実施できない国もありましたが、ASEAN 5 か国と中国・台湾の中学・高校・大学等に、123名を派遣しました。日本語パートナーズは日本語学習者や地域の人々とのふれあいを生み出すとともに、課外活動やイベント等を通して日本文化の紹介を行っています。

年齢も経歴も多様な人々が、 生きた日本語を伝える

専門知識がなくても、特技のある方、人生のキャリアを積んだ方、アジアとの交流に熱意を持った方等がそれぞれの強みと経験を生かし、日本語ネイティブだからこそ生きた日本語、リアルな日本を伝えています。



学び合うことで生まれる深い絆

日本語パートナーズは、日本語や日本文化を伝えるだけではなく、派遣先では現地の言葉と文化を学びます。相手への敬意をもって対等な立場で交流することで現地の人との絆を深めています。



参加者の声

日本語パートナーズ(NP)



NPベトナム6期
安部祥子さん

派遣中は折り紙や料理、折染め等さまざまな日本文化紹介活動を行いました。生徒が嬉しそうに参加する姿を見ることが、自分自身のやりがいにつながっていました。現在は福祉系の仕事に携っており、仕事で関わる児童や同僚とは、ベトナムに関する話題で距離が縮まり、良い関係を築きかけられています。今後は行政と連携して、ベトナム人と地元福岡県直方市の市民が交流できるようなイベントを実施したいです。

派遣先校の先生



ブラチャックシラパ
カーン学校
**ブッサバン・ロードラン
シー先生**
(タイ)

コロナ禍にもかかわらずNPが派遣され、生徒たちは日本人と直接日本語を話すことができるようになり、とても楽しそうでした。日本語があまり得意ではない生徒も、積極的に日本語で挨拶するようになりました。NPの提案と協力により日本の高校生とZoomでオンライン交流することができ、生徒にとって大変良い経験になったと感じています。

派遣先校の生徒



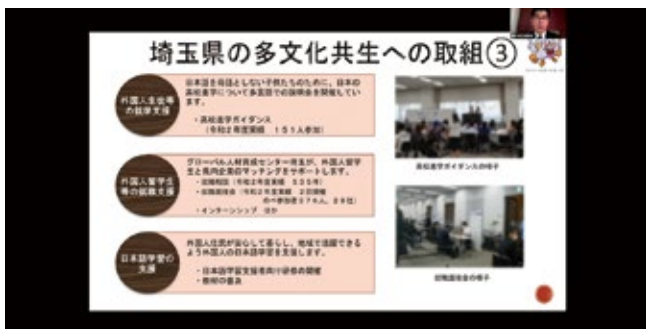
チマヒ第一国立専門
高等学校
**ムハンマド・アズハリ・
ウィラセナさん**
(インドネシア)

日本語コンテストに出場した際、NPが根気よく丁寧に教えてくれたおかげで3位に入賞できてとても嬉しかったです。日本語の勉強は難しいですが、私たち生徒はNPと面白いことをたくさん共有し、お互いに冗談を言い合ったりしました。日本人から直接学ぶことで、日本語や日本文化をもっと学びたいと思うようになり、授業がより楽しくなりました。

日本語パートナーズ事業のうち2021年度にオンラインで実施した事業

コロナ禍での事業の取り組み

埼玉県国際課との共催で「令和3(2021)年度埼玉県における多文化共生事業に関する集い」をオンラインにて実施しました。20名の日本語パートナーズ(NP)経験者と、外国人支援等多文化共生に関する活動を実施する六つの団体の関係者が参加し、各団体の具体的な活動紹介を踏まえ、NPとして経験を活かすことのできる点や、活動する上での今後の課題や可能性等について活発に意見を交換しました。



コロナ禍での日本語パートナーズの取り組み

NP インドネシア16期 堀江一郎さん

コロナ禍では、休校やオンライン授業が多く、なかなか対面授業を行うことができませんでした。オンラインでは生徒の反応がわかりにくいため、絶えず生徒に簡単な質問をする等、みんなが授業についてこられるような工夫をしていました。また、登校人数に制限がある中で実施した書道の文化紹介では、10人ほどしか参加できなかったものの、皆とても一生懸命に、そして楽しそうに取り組んでくれました。



芸術・文化の双方向交流事業

美術、映画・映像、舞台芸術、スポーツ、市民交流、知的交流等さまざまな分野で、アジアの人々の交流活動を推進しています。双方向性、協働性を重視し、各々のアイデンティティと多様性を尊重し合い、共にアジアの新たな文化を創造しました。

「第34回東京国際映画祭」をプラットフォームとした映画交流事業

東京国際映画祭(TIFF)と共催したアジア映画人のトークシリーズ「アジア交流ラウンジ」は好評を博し、会場参加のほか、世界48か国以上約4万人がライブ配信とアーカイブ映像を視聴しました。また、TIFFの一部門として実施してきた「CROSSCUT ASIA」をオンラインでの二部構成の特別編として復活させ、計13プログラムを無料で配信上映しました。



©2021 TIFF

オンライン交流対談「アジアセンター クロストーク」

文化芸術の担い手同士の相互理解の促進、ポストコロナの具体的な交流事業への発展を念頭に、パフォーマンス、コンテンポラリーダンス、サステナブルデザイン、工芸、現代アート、伝統芸能、祭りとコミュニティ、オーケストラ、建築と、多岐にわたる日本と東南アジア各国の担い手同士のオンライン対談動画(全10回)を制作し、配信しました。



日本の各地域とアジアを結ぶ文化事業を展開

「三陸国際芸術祭2021」では、三陸地方に伝わる民話を題材にインドネシア、カンボジア、三陸の伝統芸能・郷土芸能団体が協働して『髪長姫～アジアが紡ぐ笛ものがたり』を制作、オンラインで全世界に配信しました。また、沖縄各地とアジア各国・地域を結んで、共通の課題を話し合うセミナーや各国の伝統芸能を紹介する事業を実施しました。



国際交流基金では、国際文化交流への理解と参画を促進するため、「国際交流基金賞」及び「国際交流基金地球市民賞」により、国際文化交流を通じて日本と海外の相互理解の深化に貢献した個人・団体や、地域に根ざした優れた国際交流を行っている団体を顕彰しています。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 国際交流基金賞 ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

学術、芸術その他の文化活動を通じて、国際相互理解の増進や国際友好親善の促進に特に顕著な貢献があり、引き続き活躍が期待される個人・団体へ国際交流基金賞を授与しています。48回目となる2021年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により中止となった前年度の推薦分を含めた101件の中から、4件の受賞者を決定しました。

受賞者・団体及び授賞理由

日本 是枝裕和(映画監督)

是枝氏は市井の人々に寄り添い生活の機微を優しく見つめる一方、育児放棄された子どもたちや万引きで生計を立てる疑似家族を描いて(『誰も知らない』『万引き家族』等)、現代日本の社会のありようを問いかけてきた。その諸作品は人間についての深い洞察に満ち、世界で高く評価されている。また日仏合作の『真実』や、日韓をつなぐ『ペイビー・ブローカー』の制作等、映画を通じた国際相互理解の推進に大きく貢献している。



©藤井保

日本 宮田まゆみ(笙奏者)

宮田氏は1979年より国立劇場の雅楽公演に出演し、現代音楽の巨匠による新作の世界初演を行う等、雅楽の伝統楽器の可能性を世界に発信してきた。ニューヨーク・フィル、ベルリン・ドイツ響等と共演し、各国の著名な音楽祭にも出演し、ドイツの作曲家ヘルムート・ラッヘンマンのオペラやチェコ出身の振付家イリ・キリアン氏との共演でも笙の魅力を伝えた。長年にわたり伝統楽器「笙」を通じた国際相互理解の促進に貢献している。



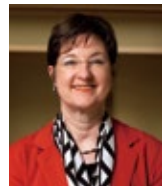
ベトナム ハノイ国家大学外国語大学日本語文化学部／ハノイ貿易大学日本語学部／ハノイ大学日本語学部

ベトナムにおける日本語の普及の勢いは目覚ましく、この発展の背景には日越両国間の経済交流や文化交流があり、それを支える優秀な人材を育てたハノイ国家大学外国語大学、ハノイ貿易大学、ハノイ大学(旧ハノイ外国語大学)の3校の日本語教育の歴史がある。2017年には3校が中心となり、ベトナム初の全国組織「ベトナム日本語・日本語教育学会」を発足させ、活動を展開している。



ドイツ イルメラ・日地谷＝キルシュネライト(ベルリン自由大学教授)

日地谷＝キルシュネライト教授は、欧州を代表する日本文学研究者、文芸批評家、翻訳者で、三島由紀夫等の現代日本文学を分析・解説し、私小説や日記といった日本独特の文学形式を考察する等顕著な業績を上げ、日本文化・社会に関する理解の増進に大きく寄与した。長くベルリン自由大学の教授を務め、後進の育成にも尽力し、また国際学術ネットワークを構築して、日欧の相互理解を促進し、その業績は各界から高く評価されている。



©Pablo Castagnola

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 国際交流基金地球市民賞 ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

日本と海外の市民同士の結びつきや連携を深め、互いの知恵やアイデア、情報を交換し、ともに考える先進的で独自性のある活動に取り組む日本国内の団体を顕彰しています。37回目となる2021年度は3団体を選出され、昨年度に続きオンラインでの授賞式を開催しました。

受賞団体及び授賞理由

一般社団法人 エル・システマジャパン

エル・システマとは、オーケストラ活動を通じて貧困等の社会課題に取り組むことを目的としたベネズエラ発の教育プログラムである。同団体は、東日本大震災で甚大な被害を受けた福島県相馬市で、子どもたちに生きる希望を持ってほしいとの思いで設立された。活動は日本各地に広がり、海外の子どもたちと合同コンサートを開催するに至っている。子どもたちが世界とつながり、自信を持つよう工夫されており、地域活性化にも貢献している。



学校法人 ムンド・デ・アレグリア学校

静岡県浜松市には南米からの日系二世・三世が数多く居住し、地域の企業を支えている。しかし言葉の壁を理由に、彼らの子どもたちが教育現場で辛い思いをすることも多かった。ムンド・デ・アレグリア学校では、幼稚園から高校生の子どもたちに、日本語と母国語の両方に対応した教育を提供するほか、彼らの進学・就職等の進路相談にも対応する。子どもたちの未来を切り拓くサポートは、ダイバーシティ社会実現への一助となっている。



特定非営利活動法人 名古屋難民支援室

名古屋難民支援室は2012年に設立した東海地方唯一の難民の拠り所である。弁護士や地域の支援者らが、難民申請の手続きや申請中の生活支援等、長期に寄り添う必要がある難民を対象に支援活動を行ってきた。法的な手続きのほか、フードバンクを通じた食料支援や難民認定後の地域での定着支援等、幅広くサポートを行っている。近年は難民への理解を広めるための啓発活動にも力を入れており、多様な担い手が連携する取り組みが地域に浸透しつつある。



2021 海外事務所の取り組み

JFは、24か国に25の事務所を設け、地域・国別事業方針の下、各国・地域の状況に合わせ、「文化芸術交流」、「日本語教育」、「日本研究・知的交流」の各分野でさまざまな活動を展開しています。各事務所による活動報告をご紹介します。



1

イタリア

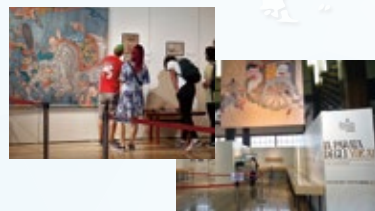


ローマ

日本文化会館

「妖怪大行進：日本の異形のものたち」展

湯本豪一記念日本妖怪博物館名誉館長の湯本豪一氏監修による新作海外巡回展を開催しました。新型コロナウイルス感染症対策措置がまだ残る中、報道を通じて大きな注目を集め、子供から年配の方まで数多くの来場者が、時代とともに変化してゆく不思議な妖怪の世界を楽しみました。遠方からもオンラインで親しめるよう、湯本氏の出演協力を得て独自制作したイタリア語での紹介・解説ビデオを当館YouTube上に公開しました。* <https://www.youtube.com/watch?v=uiSOiLWAeHQ&t=1s>



2

ドイツ



ケルン

日本文化会館

宮沢賢治月間

日独交流160周年を記念する行事の一環として、3月を「宮沢賢治月間」と称し、『セロ弾きのゴーシュ』『やまなし』『銀河鉄道の夜』等の作品をテーマに、朗読・チェロコンサート、日本学の講演、独創的なオノマトペについてのワークショップや翻訳セミナー、映画上映等、文化芸術から日本語教育、日本研究まで分野横断的な12のイベントを集中的に行い、ドイツではまだまだあまり知られていない宮沢文学の世界の魅力を紹介しました。



3

フランス



パリ

日本文化会館

『グレンダイザー』回顧展

永井豪氏原作テレビアニメ『UFOロボ グレンダイザー』は、1970年代末からフランスで『Goldorak』の名で放映され、大人気を博しました。2021年秋に開催した回顧展『Goldorak-XperienZ : 1975-2021 Retrospective』には、制作過程やフィギュア等の展示に、放映当時熱中した世代が子ども連れで詰めかけ、週末は開館前に長蛇の列ができるほどの盛況を呈し、ふだん日本文化になじみのない人々にも多数ご来場いただきました。



©パリ日本文化会館 /澤田博之

4

韓国



ソウル

日本文化センター

オンラインこけし絵付ワークショップ

海外巡回展「人形NINGYO-美と芸術の日本人形」展の関連企画イベントとして、宮城県のかげし職人の工房と韓国の会場をオンラインでつなぎ、こげしの絵付けを行うワークショップを宮城県との共催で実施しました。参加者からはコロナ収束後には実際に工房を訪れたいとの声が多く聞かれました。市民レベルの文化交流を通じて日本の人形文化、職人文化への理解を深めるとともに、訪日意欲向上にも資する有意義な機会となりました。



5



中国



北京

日本文化センター

2021年度 全国中等日本語教師大会

中国教育部傘下の人民教育出版社と共催で、全国の中等日本語教師を対象としたオンライン研修会を実施しました。「高考」(大学入学試験)で日本語を選択する学習者の急増に伴う、現場のニーズへの対応として、最新の教育政策動向の共有や、新教材・事業に関する情報交換を行い、教師間のネットワーキングにも貢献しました。1769名が修了、配信視聴者数は約7000人に達し、動画の累計アクセス数は4万回を超えました。



6



インドネシア



ジャカルタ

日本文化センター

デジタルイラストレーション添削講座

イラストレーター兼YouTuberのさいとうなおき氏によるデジタルイラストレーション講座をWacom Indonesia との共催によりYouTube Liveで実施。インドネシアでイラスト作品を公募し、400を超える作品の中から選ばれた1作品を題材に、同氏による添削講座とライブQ&Aセッションを行いました。当日は1600人を超えるライブ視聴者による活発な質疑応答が行われました。



7



タイ



バンコク

日本文化センター

タイ中等教育 リーダー日本語教師育成

タイ教育省との共催事業「リーダー日本語教師育成プロジェクト」のキックオフとなる研修をバンコクで実施し、タイ全土の中学校・高校から14名のタイ人日本語教師が参加しました。参加者は、これから2年間、リーダー教師となるためのプログラムに参加する予定です。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、教師たちは直接会う機会が激減していたこともあり、「リアル」の場での議論は盛り上がり、魅力的な授業案が数多く生まれました。



8



フィリピン



マニラ

日本文化センター

『SULONG (前へ)』

さまざまな事業を通じ、多様性を尊重したテーマに取り組んでいます。フィリピンは歴史的に異文化を多く取り入れてきた社会、LGBTQや障がい等のある方に寛容な社会と言われていています。当センターが企画・制作した『SULONG (前へ)』は、東京2020パラリンピックに参加のフィリピン人アスリート3名が主人公の短編映像です。この大会のレガシーを通して、障がいを克服し活躍する姿から包摂的な社会の実現を促すメッセージを発信しています。



9



マレーシア



クアラランブール

日本文化センター

東方政策40周年記念コンサート「日本の民謡」

日本とマレーシアの関係の発展に寄与した東方政策は、2022年で40周年を迎えました。この記念の年のオープニングを飾るイベントとして、熊谷太輔氏(打楽器奏者)を音楽監督に迎え、現代風にアレンジした「日本の民謡」コンサートを3月に開催し、サベ(マレーシアの民族楽器)奏者のアレナ・ムラン氏とも共演しました。マレーシアではコロナ禍後、初の海外招へい公演ということで注目を集めるとともに、観客から好評を博しました。



10



ミャンマー



ヤンゴン

日本文化センター

ミャンマーの人々の平和への思いをのせた七夕イベント

ミャンマーでは政変後、国全体で混乱が続き、しばらくの間はオンラインも含め事業を実施できる状況ではありませんでした。そうした中、7月の七夕にちなみミャンマーの人々の思いや願いを短冊に書いてもらい、その短冊を吊るした笹を避難帰国中の運営専門員が日本の神社に奉納する様子をYouTubeで公開しました。また、七夕にまつわる物語の紹介と七夕飾りを作る折り紙のワークショップをオンラインで実施したところ、大きな反響がありました。



11



インド



ニューデリー

日本文化センター

オンライン紙芝居を通して考える平和・いのち

丸木俊・位里夫夫妻が描いた「原爆の図」を元に、米国生まれの詩人アーサー・ピナード氏が作り出した紙芝居『ちっちゃいこえ』をヒンディー語に翻訳し、子どもたちに読み聞かせるオンラインイベントをBookaroo Trustと共催で8月6日に開催し、ピナード氏は、ヒロシマの悲劇や本作品に込めた思いを語りました。インド各地から700人以上の参加を得て、平和、環境、生命について考える機会を提供しました。



12

オーストラリア
—
シドニー
日本文化センター

日豪インディペンデント・アニメーション展

2022年2月から7月に「Continuum」展を実施しました。本展では、矢野ほなみ氏とデボラ・サビーロ氏のキュレーション、そして山村浩二氏の監修のもと、15名の日豪インディペンデント作家によるアニメーション作品が紹介されました。両国の、繊細で複雑な、美しい物語たちが、分断の際立つ現代において、人間が他者や世界と繋がっている感覚を取り戻すことの意義を、鑑賞者に問いかけました。



13

カナダ
—
トロント
日本文化センター

電子図書館サービスOverDriveの導入

図書館サービスを安全かつ継続的に提供することを目指し、OverDrive社による電子図書館サービスを開始しました。オンラインで日本関連の電子書籍やオーディオブックにアクセスできる環境を整えたことによって、カナダ各地の人々に日本の情報を届けることが可能となりました。2022年度には米国にも拡大し、北米のJF3拠点(ニューヨーク・ロサンゼルス・トロント)で共同運営を行います。

* <https://jf.overdrive.com/>



14

米国
—
ニューヨーク
日本文化センター

50周年 & 20周年。米国で二つの記念イベントを開催

2022年3月にハワイで開催された全米アジア研究学会(AAS)年次総会でJF設立50周年を記念した日本研究国際シンポジウム、講演会、レセプションを実施し、全米や諸外国から集まった多数の日本研究者に参加いただきました。また、2021年10月には「日米草の根交流コーディネーター派遣(JOI)プログラム」の20周年を記念したシンポジウムをテネシー州で開催し、全米の関係者とこれまでの成果と今後の展望について議論しました。



15

米国
—
ロサンゼルス
日本文化センター

サンディエゴ郡の小学校で500人強が新たに日本語学習をスタート

サンディエゴ郡パウウェイ市における初の日本語プログラムが二つの小学校で同時開講し、2校で500人強の生徒が日本語を新たに学び始めました。当センターでは地元学校区、姉妹都市協会、在外公館と連携し、構想段階から立ち上げに至るまで助成、情報提供等を通じて一貫した支援を行いました。さらに2022年度からは同学区の中学校でも日本語プログラムが新設され、継続した日本語学習環境が整う予定です。



16

メキシコ
—
メキシコ
日本文化センター

メキシコ独立200周年を祝う、日本特集イベント

メキシコ独立200周年において、日本はアグアスカリエンテス州による特別招待国となり、同州にて各種日本文化イベントを実施しました。新型コロナウイルス感染症による規制の中でも、当センターでは、日墨交流を描く紙芝居の公演、日本語ミニレッスン、邦楽ワークショップ、映画上映、広報ブースの出展等、さまざまな対面事業を実施しました。久々の大型イベントに会場は連日非常に賑わい、対面ならではの文化交流の魅力が示されました。

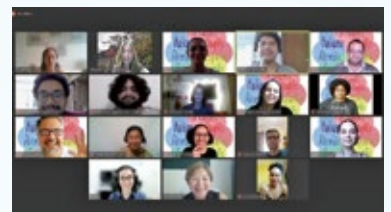


17

ブラジル
—
サンパウロ
日本文化センター

『いろどり』ポルトガル語版制作 × 国境なき言語

『いろどり 生活の日本語』ポルトガル語版(入門(A1)、初級1、初級2(A2))の制作を行い、ウェブ上で2022年3月から無償公開を開始しました。2016年より開始され、ブラジル連邦5大学にて実施している日本語講座「国境なき言語」では早速授業で使われるようになり、260名近くの生徒にとっても歓迎されています。アンゴラ等ブラジル以外のポルトガル語圏諸国や在日ブラジル人への日本語教育現場でも活用されています。* <https://fjisp.org.br/iroduori/>



18

英国
—
ロンドン
日本文化センター

英国最大の日本映画巡回上映会、銀幕で再開

日本映画の巡回上映会が、英国27都市の銀幕で再開されました。『騙し絵の牙』のほか、『タイトル、拒絶』といった話題の秀作を上映し、久しぶりの大画面、音響に多数の観客が湧きました。コロナ禍でゲストの来英が難しい中、本編前に監督による特別ビデオメッセージを流し、『梅切らぬバカ』の和島香太郎監督と英国人ジャーナリストのオンライントークでは、日英共通の自閉症の問題を、映画を通して考える場も提供しました。



19

 スペイン
—
マドリード

日本文化センター

日本映画 BOOM EN ESPAÑA

「アルカラ通りまで長蛇の列が続いている…」これはスペイン主要都市で実施した「成瀬巳喜男監督特集」をマドリードで実施した際の様子。私たちは日本映画のスペインでの盛り上がりを実感していました。当センターの映画事業での観客動員数は今年度は2万人強。10年前に比べて約5倍の伸びを示したのです。更に、「シッチェス・カタロニア国際映画祭」においては、名誉賞受賞の細田守監督が満員の劇場で挨拶し、スペイン市民の興奮は最高潮に達しました。



20

 ハンガリー
—
ブタペスト

日本文化センター

シネマ歌舞伎を上映

2022年3月、シネマ歌舞伎の上映会を4日間にわたり開催しました。日本の伝統芸能である歌舞伎についてよく知ってもらい、その奥深さをより楽しんでもらえるように、上映前には歌舞伎に詳しい専門家による講演会も実施しました。ハンガリーでは観る機会がほとんどない歌舞伎公演を、映画館の大きなスクリーンで楽しめるといことで、約730人と多くの市民が来訪し、日本への関心を高める貴重な機会となりました。



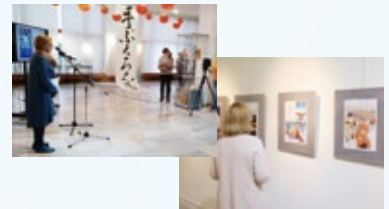
21

 ロシア
—
モスクワ

日本文化センター

ロシア発『てぶくろをかいに』絵本表紙展が里帰り

長い外出自粛期間中、ロシア語字幕付きで日本の絵本の朗読動画配信を始めました。その一環として配信した『てぶくろをかいに』に基づいた絵本の表紙コンクールは大きな反響を得て、593名もの応募があり、日露の審査員はうれしい悲鳴を上げました。2021年9月にモスクワで実施された入賞作品展は、翌2022年2月、日本でも中野東図書館で実施され、新美南吉が『てぶくろをかいに』を執筆した中野（東京都）に里帰りを果たしました。



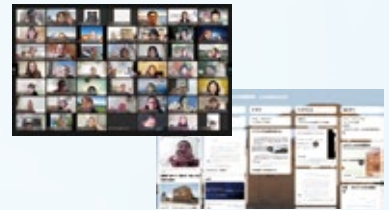
22

 エジプト
—
カイロ

日本文化センター

オンライン時代の日本語教育シンポジウム

事前に収録したビデオ発表を中心としたセッションと、基調講演やビデオ発表を踏まえた質疑応答・ディスカッション・ワークショップ等のセッションを混合させたオンライン時代の新しい形式で「中東・北アフリカ日本語教育シンポジウム JLEMENA2022『教える』から『学ぶ』へ ー自律・対話・協働ー」を実施しました。全日程で400名以上が登録し、日本語教育に関する情報共有、対外発信、教授能力の研鑽、ネットワーク構築に貢献しました。



23

 ベトナム
—
ベトナム
日本文化交流
センター**初のベトナム初等・中等日本語教師フォーラム**

ベトナムの初等・中等教育機関による日本語教育の導入・普及やカリキュラム整備の流れを受け、ベトナム人日本語教師に対する情報共有・知識強化・ネットワーキングを目的とし、オンラインでの日本語教師フォーラムを現地共催機関の文化言語教育学際研究所と実施しました。初中等日本語教師とその他日本語教育関係者を合わせて107名の参加があり、日本語教育事情やベトナムの外国語政策等の最新情報を共有、意見交換することができました。



24

 カンボジア
—
プノンペン
連絡事務所**アジア文芸プロジェクトにおける「マンガ」展**

カンボジアにおける若年層への読書文化啓蒙を目的として、日本のマンガ展示及びアニメコスプレや関連テーマに関するステージイベントを実施しました。マンガを巨大パネルにして展示したほか、ステージではコスプレイヤーによるショーや、カンボジア人作家によるトークイベント、有名歌手によるミニコンサート等をプノンペン中心にあるショッピングモールの催事スペースで計5日間実施し、のべ3万5000人を動員しました。



25

 ラオス
—
ビエンチャン
連絡事務所**DigiCon6 ASIA-第2回ラオスコンテスト**

2021年8月にTBSホールディングスがアジアの国と地域を対象に開催する映像祭「DigiCon6 ASIA Awards」の、第2回ラオス予選コンテストを実施しました。本事業は同年4月から公募し、応募総数は11件（大半がアニメ、一部が実写作品）で、8月の審査会では、ゴールド賞、シルバー賞、ネクストジェネレーション賞がそれぞれ選出され、各国の作品と各賞を競った東京大会（同年11月）へ出品されました。



事業実績 文化芸術交流

1 主催公演・舞台芸術国際共同制作

- 青年団×バスカル・ランベール(フランス)『KOTATSU』
- 彩の国さいたま芸術劇場×クリストファー・グリーン(英国)『THE HOME オンライン版』
- 世田谷パブリックシアター×ラファエル・ボワテル(フランス)『フィアース5』
- チェルフィッシュ×藤倉大、クラングフォーラム・ウィーン(オーストリア)『新作音楽劇ワークインプログレス公演』
- SPAC-静岡県舞台芸術センター×フランス国立演劇センタージュヌヴィリエ劇場(フランス)SPAC秋→春のシーズン2021-2022 #2『桜の園』
- 劇団SCOT×レスツ・クスマニングルム(インドネシア)『エレクトラ』
- カンパニーデラシネラ×リー・レンシン(マレーシア)、リウ・ジュイチュー(台湾)『TOGE』
- エス・シー・アライアンス×シェン・響盟・リベイロ、ガブリエル・レヴィ、アリ・コラーレス(ブラジル)『空の橋』

2 日本祭り開催支援

- 全米桜祭りオープニング／大野敬正&夕田敏博+民謡クルセイダース+剣伎衆かむみ 公演(米国)
- 日本・セネガル外交関係樹立60周年／和太鼓集団・鬼太鼓座公演テレビ放送(セネガル)
- 日本語フィエスタオンライン2022／和太鼓集団「倭」オンライン配信(フィリピン)
- 日本・トルコ交流130年記念／ひろしま神楽オンライン配信(トルコ)

3 海外派遣助成

<新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止>

4 パフォーミング・アーツ・ジャパン

- 1か国4都市及びオンライン、3件

5 国際展

- 第17回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展日本館展示「ふるまいの連鎖:エレメントの軌跡」

6 企画展

- 「集団と個の狭間で—1950年代から60年代の日本前衛美術」展(ポーランド)
- 「Rimpa feat. Manga」展(ドイツ)

7 国際交流基金巡回展

- 16セット、32か国・地域、56都市

8 海外展助成

- 16か国23都市、25件

9 欧米ミュージアム基盤整備支援

- 2か国4都市、4館

10 翻訳出版助成

- 21か国・地域、30件

11 専門家交流

<新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止>

12 情報発信

- 「日本文学翻訳作品データベース」
- 翻訳推薦図書・児童図書リスト「Worth Sharing」、「Lifelong Favorites」(ウェブサイト・冊子)
- 「パフォーミング・アーツ・ネットワーク・ジャパン(PANJ)」(舞台芸術ウェブサイト)
- 「ヴェネチア・ビエンナーレ日本館展示」(ウェブサイト)
- 「More than Worth Sharing」翻訳家座談会動画シリーズ
- 「Translator Spotlight」日本文学翻訳家インタビュー動画シリーズ
- 現代作家往復書簡シリーズ「会えない時代の往復書簡」(特設ウェブサイト・雑誌連載)
- 「STAGE BEYOND BORDERS」(舞台公演オンライン配信プロジェクト)
- 国際交流基金巡回展動画シリーズ(「妖怪大行進」、「超絶技巧の日本」、「日本の贈り物」、「日本人形」、「構築環境」、「現代・木彫・根付」、「焼締」、「すしを愛でる」)
- 「美術館への誘い」動画シリーズ(日本各地のミュージアム紹介)
- 「日本のマンガ文化」動画シリーズ
- 「Beyond the Lines」動画シリーズ(日本の現代美術作家紹介)
- 米国日本庭園活性化事業「130 Years of Japanese Gardens」(ウェビナー・シリーズ)、「Adaptability and Resilience — Sustainability in Japanese Gardens」(ハイブリッド・シンポジウム)
- 日仏高校生交流アプリ「Nakamitié」
- 戯曲翻訳出版(フランス、スペイン、ロシア)
- 日本映画データベース(JFDB)

13 日本映画上映

- 主催事業:43か国・地域で日本映画祭・上映会を実施
- 助成事業:13か国・地域で16件の日本映画上映事業に助成
- オンライン日本映画祭
- 日本映画発信ウェブサイト「JFF+」

14 テレビ番組紹介

- 76か国・地域で、のべ489番組

15 中国高校生長期招へい

<新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止>

16 日中高校生対話・協働プログラム

- 日中高等学校間のオンライン交流事業:14件
- 日本側参加者向けオンライン研修:2件

17 中国「ふれあいの場」

- 中国国内17都市で運営、催しを実施(のべ来場者2万3499人)
- オンライン日本文化セミナー:6件
- 「ふれあいの場」実務担当者会議(オンライン)

18 ネットワーク強化

- 大学生交流事業(オンライン):11件
- 「リードアジア2021」(オンライン)
- 「ふれあいの場」学生代表研修(オンライン)
- 心連心ウェブサイトの運営(日中両言語)

事業実績 海外における日本語教育

1 「JF 日本語教育スタンダード」の活用推進

- 「JF 日本語教育スタンダード」サイト年間アクセス数: 約26万6000件
- 「みんなのCan-do サイト」年間アクセス数: 約29万7000件
- 『まるごと 日本のことばと文化』海外出版 2か国2レベル刊行
- 『いろいろ 生活の日本語』ことばリスト、音声付きPDF等コンテンツ拡充
- 『ひきだすにほんご Activate Your Japanese!』放送・配信(共同制作: NHKエデュケーショナル)
- NHKワールド JAPAN『Easy Japanese(やさしい日本語)』放送・配信(監修)
- 国内外の各種オンラインセミナー・研修会等での情報提供

2 JF 講座の実施

- 26か国・地域、28都市

3 インターネットを活用した教育ツール

- 1 「JF にほんご e ラーニング みなと」登録者数: 約29万2000人
- 2 「いろいろ日本語オンラインコース」登録者数: 約5万4000人
- 3 「みんなの教材サイト」年間アクセス数: 約144万件
- 4 「まるごと 日本のことばと文化」(サイト)年間アクセス数: 約572万件
- 5 「まるごと+(まるごとプラス)」年間アクセス数: 約985万件
- 6 「いろいろ 生活の日本語」年間アクセス数: 約219万件
- 7 「ひろがる もっといろいろな日本と日本語」年間アクセス数: 約75万件
- 8 「アニメ・マンガの日本語」年間アクセス数: 約117万件
- 9 「NIHONGO e な(いいな)」年間アクセス数: 約103万件
- 10 「日本語でケアナビ」年間アクセス数: 約65万件
- 11 「エリンが挑戦! にほんごできます。」コンテンツライブラリー
年間アクセス数: 約199万件
- 12 「エリンと挑戦! にほんごテスト」(初学者向けアプリ)
年間ダウンロード数: 約1万件
- 13 HIRAGANA Memory Hint(文字学習アプリ)
年間ダウンロード数: 約10万件
- 14 KATAKANA Memory Hint(文字学習アプリ)
年間ダウンロード数: 約5万件
- 15 KANJI Memory Hint 1,2&3(文字学習アプリ)
年間ダウンロード数: 約6万件

4 日本語能力評価のための試験

1 日本語能力試験(JLPT)

第1回試験(7月4日): 海外25か国・地域、93都市、
受験者数14万2289人

国内47都道府県、受験者数19万3626人

第2回試験(12月5日): 海外68か国・地域、175都市、
受験者数17万3365人

国内47都道府県、受験者数17万5627人

*日本国内での試験は、共催者である(公財)日本国際教育支援協会が実施

2 国際交流基金日本語基礎テスト(JFT-Basic)

年6回 海外9か国、16都市、国内47都道府県

受験者数3万596人

5 日本語事業に関する調査、情報提供

- 『国際交流基金日本語教育紀要』(年1回の発行)
- 『日本語教育通信』(月1回の更新)年間アクセス数: 約50万件
- 「日本語教育国・地域別情報」サイトの運営

6 海外事務所における日本語事業及び

「JF にほんごネットワーク」(さくらネットワーク)

- 国際交流基金海外事務所及び日本人材開発センター日本語事業部門(日本センター)事業: 28か国、260件

- 「さくらネットワーク」: 102か国・地域、357機関
海外日本語教育機関支援(助成): 95か国・地域、652件

7 日本語専門家の海外派遣

日本語専門家等派遣

- 日本語上級専門家: 21か国、29ポスト
- 日本語専門家: 39か国 78ポスト
- 日本語指導助手: 12か国、12ポスト
- 米国若手日本語教員(J-LEAP): 1か国、7ポスト

8 海外の教師を対象とした招へい研修

海外日本語教師研修

- 基礎(オンライン): 25か国、32人
(基礎(秋期): 25か国、31人)
(基礎(冬期): 18か国、21人)
- 教授法(オンライン): 15か国、20人
- 大韓民国中等教育日本語研修(オンライン): 1か国、18人
- 中国中等学校日本語教師研修(オンライン): 1か国、7人
- テーマ別: 17か国・地域、96人
(テーマ別(JF日本語教育スタンダード)(オンライン): 11か国、21人
テーマ別(日本語教育と文化)(オンライン): 13か国、25人
テーマ別(読解の教え方)(オンライン): 12か国、26人
テーマ別(文法指導法再考)(オンライン): 7か国、14人
テーマ別(ビジネス日本語の教え方—ニーズを調べる)(オンライン): 9か国、12人)
- 日本語(オンライン): 14か国、27人
- 特定技能制度による希望者のための日本語教授法研修: 6か国、61人
(第1回(オンライン): 5か国、16人
第2回(オンライン): 4か国、15人
第3回 : 4か国、13人
第4回(オンライン): 6か国、17人)
- 大阪府クイーンズランド州日本語教師研修(オンライン): 1か国、14人
- 「いろいろ日本語オンラインコース」活用オンラインセミナー(8月)(オンライン): 18か国、108人
- 「いろいろ日本語オンラインコース」活用オンラインセミナー(12月)(オンライン): 26か国、142人
- 日本語教師のための動画制作入門セミナー(応用編)(オンライン): 18か国、64人

9 海外の学習者等を対象とした招へい研修

専門日本語研修

- 2020年度(前年度からの継続)
外交官・公務員研修(オンライン): 28か国、28人
- 2021年度
外交官・公務員研修(オンライン): 29か国、33人
文化・学術専門家研修2ヶ月コース(オンライン): 6か国、10人

日本語学習者訪日研修

- 李秀賢氏記念韓国青少年訪日研修(オンライン): 1か国、14人

10 経済連携協定(EPA)関連日本語教育研修

インドネシア及びフィリピンにおいて、看護師・介護福祉士候補者を対象に、日本語予備教育事業を6か月間実施

- EPA 研修: 2か国、4件
2020年度(継続) インドネシア: 274人 フィリピン: 227人
2021年度(新規) インドネシア: 302人 フィリピン: 250人

11 受託研修

教師研修

<新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止>

学習者研修

- (公財)大阪ガス国際交流財団インドネシア人大学生日本語研修(オンライン): 1か国、2人
- グリフィス大学日本語研修(オンライン): 1か国、10人

12 その他の研修

- 大阪府JET青年来日時研修
第1回(オンライン): 4か国、39人
第2回(オンライン): 7か国、26人
第3回 : 5か国、21人
- 全国JET日本語教授法研修(オンライン): 9か国、16人

13 各センターの図書館

- 日本語国際センター 来館者数: 1758人(臨時休館中も予約図書貸出サービスを実施)
- 関西国際センター 来館者数: 4332人

事業実績 日本研究・知的交流

1 日本研究機関支援

1. 日本研究基盤整備

アジア

韓国: 翰林大学、高麗大学、ソウル大学日本研究所、ソウル大学アジア言語文明学部

中国: 浙江工商大学、南開大学、復旦大学

台湾: 政治大学

インドネシア: インドネシア大学

ベトナム: ベトナム国家大学附属人文社会科学大学ハノイ校

インド: ジャワハルラル・ネルー大学国際関係学部、ジャワハルラル・ネルー大学言語・文学・文化学部、デリー大学

バングラデシュ: ダッカ大学

米州

米国: アリゾナ大学、カリフォルニア大学アーバイン校、カリフォルニア大学サンタバーバラ校、ケース・ウェスタン・リザーブ大学、スワスモア大学、テキサス大学オースティン校、パデュー大学、ペンシルバニア大学、ユタ大学

欧州

英国: イースト・アングリア大学

ロシア: 極東連邦総合大学

中東・アフリカ

イスラエル: エルサレム・ヘブライ大学

エジプト: カイロ大学

2. 日本研究プロジェクト助成

- 17か国・地域、19件

2 北京日本学研究中心

1. 招へい事業(オンライン含む)

- 北京外国語大学
 - 訪日研究(修士第35期生): 14人
 - 博士フェロー(第20・21期生): 3人
- 北京大学
 - オンライン特別研修(博士第16期): 7人

2. 派遣事業(オンライン)

- 北京外国語大学: 6人
- 北京大学: 10人

3. その他事業

- 北京外国語大学
 - 修士課程向けオンライン・ワークショップ: 1件

3 日本研究フェローシップ

- 156人(前年度からの滞在継続者を含む)

4 日本研究ネットワーク強化

1. 主催・共催

- 第5回東アジア日本研究者協議会国際学術大会
- 第3回次世代日本研究者協働研究ワークショップ
- 日本研究者映像制作

2. 助成事業: 17か国、21件

5 知的交流強化

1. 主催・共催

- 日中知的交流強化事業 ウェブ対談: 5件
- 日独パネルディスカッション「コミュニケーションの未来と私たち」

2. 知的交流会議助成: 21件

6 現代日本理解特別プログラム

アジア・大洋州

- オーストラリア国立大学

米州

- イェール大学
- ジョーンズ・ホプキンス大学
- ハーバード大学
- インディアナ大学

欧州

- ロンドン大学キングスカレッジ
- 蘭語系ブリュッセル自由大学
- 欧州大学院大学

7 米国との知的・草の根交流

1. 主催事業

- 安倍フェローシップ: 「グローバルフォーラム」「リトリート」各1回
- 日米草の根交流コーディネーター派遣(JOI): 13人(新規8人/継続5人)

2. 助成事業

- 企画参画助成: 4件(新規2件/継続2件)
- 公募助成: 7件(新規0件/継続7件)
- ニューヨーク日米センター
 - COVID-19下における日米協会及び日本庭園緊急支援(応募29件/採用23件)
 - 日米草の根アウトリーチ人材支援(応募8件/採用7件)
 - 小規模助成: 12件(草の根交流2件/知的交流1件/教育9件)

事業実績 アジアセンター

※2019年度補正予算(第1号)により措置された「日本語・日本文化の魅力紹介サポーター派遣事業」の一環として実施。

1 日本語パートナーズ派遣事業

インドネシア:30名

カンボジア:1名

タイ:45名

中国:2名

台湾:13名

ベトナム:14名

マレーシア:18名

計123名

- 日本語パートナーズ経験者によるオンライン発表会
- 埼玉県における多文化共生事業に関する集い(埼玉県と共催のオンラインイベント)

2 アジア・市民交流事業

- 助成案件:20件

3 アジア・文化創造協働事業

- 「第34回 東京国際映画祭」をプラットフォームとした映画交流事業(トークシリーズ「アジア交流ラウンジ」ほか)
 - オムニバス映画『アジア三面鏡2016:リフレクションズ』、『アジア三面鏡2018:Journey』(オンライン配信)
 - 「CROSSCUT ASIA おいしい!オンライン映画祭」(オンライン配信)
 - オンライン交流対談「アジアセンター クロストーク ～ポスト・コロナに向けて旅する文化～」(オンライン配信)
 - 記録映像「『サタンジャワ』サイレント映画+立体音響コンサート」(オンライン配信)
 - JFA 連携サッカー事業
指導者長期派遣:カンボジア、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム
 - 柔道交流事業「日アセアン JITA-KYOEI PROJECT」
講道館技術映像シリーズ
オンライン講道館国際セミナー
柔道普及促進のための映像作成
教材等作成
プロジェクト報告書作成
 - 三陸国際芸術祭2021
 - DocCross Asia
 - オンライン・アジアセンター寺子屋
第1回(通算第7回)「日本映画をアジアへ届けたい—Japan Film Festival(JFF)の可能性」
 - 東南アジア・ムスリム青年との対話(TAMU)
「マジカル・イスラーム～作家が語るインドネシアの社会と宗教～」(※通算第8回オンライン・アジアセンター寺子屋として発信)
 - アジア文芸プロジェクト“YOMU”
 - 第26回国際交流会議「アジアの未来」(主催:日本経済新聞社)内 国際交流基金スポンサーセッション「コロナ時代の文化交流」
 - HANDs! -Hope and Dreams Project- (報告書作成)
 - 多文化共生×アジアプロジェクト—ところを紡ぐ～子守唄と人形劇でたどるアジア
 - UMITOMACHI My neighbours' port
 - 沖縄文化×アジア —伝統芸能オンライン交流—
 - 沖縄×アジア 交流プロジェクト —島をつなぎ、暮らしと文化を語る—
 - 多文化共生のまちづくりプロジェクト —アーティスト in 富士見—
 - 多文化共生プロジェクト2021『カラダでつなぐ、ASIA ～郷土芸能オンラインワークショップ～』
- 助成案件:19件

民間からの資金協力

国際交流基金は、企業、団体、個人等、広く民間からの資金協力による支援を受けて国際文化交流事業を実施しています。ここでは、2021年度の民間からの資金協力について寄附金制度を中心に紹介するとともに、主に寄附金制度を通じて資金協力をいただいた方々や、その協力による支援を受けた事業を紹介します。

1. 資金協力の種類

(1) 一般寄附金

国際交流基金による国際文化交流事業の経費の財源として活用します。

① 一般寄附金制度

企業、団体、個人より、時期、金額とも任意で受け入れる寄附金です。2021年度に寄附金をいただいた方々は、次ページの「事業費への寄附者」、「民間出えん金寄附者」とおられます。

● 事業費への寄附

寄附金を受け入れた年度の事業経費として活用します。寄附者の希望により、実施事業の中から、寄附金を充当する事業を指定することも可能です。

● 基金(ファンド)への寄附(民間出えん金)

寄附金を基金(ファンド)に組み入れ、その運用利息を毎年度の事業費として恒久的に活用します。過去に受け入れた民間出えん金による2021年度の事業実施状況は、次ページの「民間出えん金による支援事業」とおられます。

② 法人会員制度(賛助会)

企業、団体等の法人より年会費として一定額の寄附金を受け入れ、受け入れた年度の事業経費として活用します。1口10万円で、普通会员(1~4口)と特別会員(5口以上)があります。会員には、催しの案内、「国際交流基金年報」の送付等、各種特典を提供しています。2021年度に支援をいただいた会員は次ページの「賛助会会員」とおられます。

(2) 特定寄附金

国内の法人や個人が国内外の国際文化交流事業を支援する場合に、特定公益増進法人である国際交流基金が、その支援資金を寄附金として受け入れ、対象事業への助成金として交付する制度です。本制度を利用することで、法人や個人は寄附金に対する税制上の優遇措置を受けることができます。

対象となる事業は、国際文化交流を目的とする人物交流、海外における日本研究や日本語教育、国際文化交流を目的とする公演・展示・セミナー等の催し等です。特定寄附金の受入れは、外部専門家で構成される審査委員会への諮問を経て決定します。2021年度の支援事業は次ページの「特定寄附金による支援事業」とおられます。

(3) その他

上記の寄附金のほか、協賛金、助成金等、さまざまな形で民間からの資金協力による支援をいただいております。2021年度の主な支援の例は、次ページの「寄附金以外の主な支援例」とおられます。

2. 寄附金に対する税制上の優遇措置

国際交流基金は法人税法施行令第77条及び所得税法施行令第217条により「公益の増進に著しく寄与する法人」(特定公益増進法人)に指定されており、上記の資金協力のうち、国内での寄附金については税制上の優遇措置の対象となります。

(1) 法人の場合

特定公益増進法人に対する寄附金の合計額、または、特別損金算入限度額のいずれか少ない金額が損金に算入されます。

(注1) 特定公益増進法人に対する寄附金のうち、損金に算入されなかった金額(特別損金算入限度額を超える部分の金額)は、通常の寄附金の額に含めます。寄附金の損金算入限度額は次の算式によります。

● 特定公益増進法人に対する寄附金の損金算入限度額

(特別損金算入限度額)

$(\text{資本金等の額} \times \text{当期の月数} / 12 \times 0.375\% + \text{所得の金額} \times 6.25\%) \times 1/2$

● 通常の寄附金の損金算入限度額

$(\text{資本金等の額} \times \text{当期の月数} / 12 \times 0.25\% + \text{所得の金額} \times 2.5\%) \times 1/4$

(2) 個人の場合

所得の40%を上限として、寄附金の合計額から2,000円を差し引いた金額が所得控除の対象となります。相続財産からの寄附についても、税制上の優遇措置があります。

3. 2021年度寄附金額実績

	件数	金額
一般寄附金	39件	7,839,000円
賛助会	30件	6,450,000円
事業費への寄附	6件	376,000円
民間出えん金	3件	1,013,000円
特定寄附金	12件	153,787,216円

(注2) うち、162,950,782円(2020年度より繰り越した特定寄附金18,557,532円含む)を11事業(次ページ「特定寄附金による支援事業」参照)に対する助成金として交付しました。残額(9,393,966円)は、3件の事業に対する助成金として2022年度に交付予定です。

(注3) 1972年の国際交流基金設立以来2021年度末までの累計で、一般寄附金として約30億9,557万円、特定寄附金として約718億2,171万円を受け入れております。

(注4) 寄附金以外の民間からの資金協力として、2021年度に総額約3,200万円の支援(協賛金、助成金等)をいただいております。

2021年度の寄附金等による支援者や支援事業一覧

事業費への寄附者 (()内は寄附対象事業、順不同)

- サン・インベストメント株式会社(外国人のための日本語弁論大会)
- 株式会社FJC、吉田典広氏ほか個人3人(事業費全般)

民間出せん金寄附者

- 増井良啓氏ほか個人2人

民間出せん金による支援事業 (順不同)

(寄附者の意向に基づき特別事業を設定し、事業名に寄附者の名を付する冠寄附の例)

- 高砂熱学工業・日本研究フェローシップ
(寄附者は高砂熱学工業株式会社)
- 渡辺健基金・日本研究フェローシップ
(寄附者は渡辺行信氏、米国研修中に事故で逝去された元外務省職員渡辺健氏のご遺族)

賛助会会員 (2021年度末現在、50音順)

(1) 特別会員

- SMBC 日興証券(株)
- (株)みずほ銀行
- 松竹(株)
- (株)三菱UFJ銀行

(2) 普通会員

- (公財)あすか財団
- (一財)池坊華道会
- 出光興産(株)
- (一財)NHKインターナショナル
- カトーレック(株)
- (株)講談社
- (公財)講道館
- (学)駒澤大学
- (一財)今日庵
- (株)資生堂
- (一財)少林寺拳法連盟
- (一財)全日本剣道連盟
- (株)第一成和事務所
- 大和証券(株)
- 東京ビジネスサービス(株)
- (一社)日本映画製作者連盟
- (株)日本折紙協会
- (一財)日本国際協力センター
- 野村證券(株)
- (株)日立製作所
- 富士フィルムビジネスイノベーション(株)
- (株)凡人社
- (株)三井住友銀行
- 三菱UFJ モルガン・スタンレー証券(株)
- 森ビル(株)
- ほか法人1社

特定寄附金による支援事業 (()内は事業実施国、順不同)

- アジア女子大学奨学金プログラム(バングラデシュ)
- CWAJ女性のための国際文化交流奨学金制度(日本、米国)
- 三笠宮記念財団募金活動(トルコ)
- 日米交流財団フェローシッププログラム(米国)
- 清華大学日本研究センター(中国)
- LSHアジア奨学金(日本)
- バルカン室内管弦楽団公演2021(日本)
- 「ミュージック・フロム・ジャパン47周年記念音楽祭」アーティスト・レジデンス(米国)
- 第4回とやま世界こども舞台芸術祭(日本)
- 完全版マハーバーラタ〜愛の章/嵐の章(日本)
- Nagoya Ryugakusei Net大学院留学生国際交流支援事業(日本)

寄附金以外の主な支援例 (順不同)

- (公財)石橋財団(日本美術リサーチフェローシップ事業への寄附助成、ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展における日本館展示への寄附助成)
- (一社)尚友倶楽部(フエ外国語大学、ダナン外国語大学、ハロン大学及びラクホン大学への日本語教材・購送助成金)
- (一財)井上靖記念文化財団(第5回井上靖賞日本研究論文コンテスト共催分担金)

財務諸表

令和3年度 決算報告書 (令和3年4月1日～令和4年3月31日)

(単位:円)

区別	文化芸術交流事業費				海外日本語事業費				海外日本研究・知的交流事業費			
	予算額	決算額	差額	備考	予算額	決算額	差額	備考	予算額	決算額	差額	備考
▼収入												
運営費交付金	1,786,687,000	1,786,687,000	0		4,132,526,000	4,132,526,000	0		1,202,963,000	1,202,963,000	0	
運用収入	112,500,000	104,826,971	△ 7,673,029		0	1,672,068	1,672,068		564,702,000	562,484,953	△ 2,217,047	
寄附金収入	42,690,000	969,651	△ 41,720,349		2,487,000	1,265,437	△ 1,221,563		24,007,000	47,275	△ 23,959,725	
受託収入	0	0	0		2,507,000	1,815,570	△ 691,430		0	0	0	
アジア文化交流強化基金取崩収入	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
その他収入	84,946,000	50,343,579	△ 34,602,421		1,265,367,363	1,053,014,673	△ 212,352,690	※1	39,656,000	143,204,863	103,548,863	
前中期目標期間繰越積立金取崩収入	119,472,438	79,326,838	△ 40,145,600		0	0	0		0	0	0	
計	2,146,295,438	2,022,154,039	△ 124,141,399		5,402,887,363	5,190,293,748	△ 212,593,615		1,831,328,000	1,908,700,091	77,372,091	
▼支出												
業務経費	2,703,677,988	5,288,079,569	△ 2,584,401,581	※2	5,503,886,000	7,309,770,381	△ 1,805,884,381	※2	2,238,403,743	1,706,911,964	531,491,779	※3
一般管理費	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
うち人件費	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
物件費	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
予備費	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
計	2,703,677,988	5,288,079,569	△ 2,584,401,581		5,503,886,000	7,309,770,381	△ 1,805,884,381		2,238,403,743	1,706,911,964	531,491,779	

区別	調査研究・情報提供等事業費				アジア文化交流強化事業費				在外事業費			
	予算額	決算額	差額	備考	予算額	決算額	差額	備考	予算額	決算額	差額	備考
▼収入												
運営費交付金	604,082,000	604,082,000	0		0	0	0		3,752,093,000	3,752,093,000	0	
運用収入	0	1,175,460	1,175,460		0	0	0		0	38,933,713	38,933,713	
寄附金収入	900,000	713,849	△ 186,151		0	0	0		0	3,415,054	3,415,054	
受託収入	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
アジア文化交流強化基金取崩収入	0	0	0		0	0	0	※4	0	0	0	
その他収入	604,000	0	△ 604,000		0	0	0		69,811,000	58,565,967	△ 11,245,033	
前中期目標期間繰越積立金取崩収入	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
計	605,586,000	605,971,309	385,309		0	0	0		3,821,904,000	3,853,007,734	31,103,734	
▼支出												
業務経費	604,082,000	497,088,014	106,993,986	※3	0	0	0	※4	3,985,991,000	4,013,765,960	△ 27,774,960	※5
一般管理費	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
うち人件費	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
物件費	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
予備費	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
計	604,082,000	497,088,014	106,993,986		0	0	0		3,985,991,000	4,013,765,960	△ 27,774,960	

区別	文化交流施設等協力事業費				法人共通				合計			
	予算額	決算額	差額	備考	予算額	決算額	差額	備考	予算額	決算額	差額	備考
▼収入												
運営費交付金	0	0	0		1,154,446,000	1,154,446,000	0		12,632,797,000	12,632,797,000	0	
運用収入	0	259,128	259,128		8,016,000	5,154,324	△ 2,861,676		685,218,000	714,506,617	29,288,617	
寄附金収入	338,519,000	153,944,583	△ 184,574,417	※6	0	157,367	157,367		408,603,000	160,513,216	△ 248,089,784	
受託収入	0	0	0		0	0	0		2,507,000	1,815,570	△ 691,430	
アジア文化交流強化基金取崩収入	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
その他収入	0	0	0		3,365,000	4,259,004	894,004		1,463,749,363	1,309,388,086	△ 154,361,277	
前中期目標期間繰越積立金取崩収入	0	0	0		0	0	0		119,472,438	79,326,838	△ 40,145,600	
計	338,519,000	154,203,711	△ 184,315,289		1,165,827,000	1,164,016,695	△ 1,810,305		15,312,346,801	14,898,347,327	△ 413,999,474	
▼支出												
業務経費	348,167,000	172,586,921	175,580,079	※6	0	0	0		15,384,207,731	18,988,202,809	△ 3,603,995,078	
一般管理費	0	0	0		2,085,591,000	2,380,497,399	△ 294,906,399		2,085,591,000	2,380,497,399	△ 294,906,399	
うち人件費	0	0	0		693,515,000	747,524,839	△ 54,009,839		693,515,000	747,524,839	△ 54,009,839	
物件費	0	0	0		1,204,301,000	1,632,972,560	△ 428,671,560	※7	1,204,301,000	1,632,972,560	△ 428,671,560	
予備費	0	0	0		187,775,000	0	187,775,000		187,775,000	0	187,775,000	
計	348,167,000	172,586,921	175,580,079		2,085,591,000	2,380,497,399	△ 294,906,399		17,469,798,731	21,368,700,208	△ 3,898,901,477	

※1 日本語能力試験の一部中止による収入減等

※2 収入予算外である、令和2年度からの繰越予算を充当した支出があったため等

※3 一部事業の中止・縮小等による支出減等

※4 補助金事業の期間延長とコロナ禍の影響を踏まえ、令和3年度は日本語パートナーズ派遣を実施しないこととしたため

※5 一部事業の拡大による支出増等

※6 特定寄附金の受け入れ、及びその見合い支出減等

※7 システム共通基盤整備費による支出増等

貸借対照表(令和4年3月31日)

(単位:円)

資産の部		
I 流動資産		
現金及び預金		10,399,493,338
有価証券		5,999,945,420
前払金		40,163,940
前払費用		150,553,049
未収収益		136,523,985
未収金		353,841,998
賞与引当金見返(注)		248,828,954
その他の流動資産		251,434,435
流動資産合計		17,580,785,119
II 固定資産		
1 有形固定資産		
建物	13,893,024,407	
減価償却累計額	△ 7,149,471,734	
減損損失累計額	△ 298,665	6,743,254,008
構築物	312,740,798	
減価償却累計額	△ 306,742,155	5,998,643
機械装置	57,719,952	
減価償却累計額	△ 33,550,828	24,169,124
車両運搬具	115,677,812	
減価償却累計額	△ 85,262,942	30,414,870
工具器具備品	1,958,239,624	
減価償却累計額	△ 1,196,119,589	762,120,035
美術品	557,835,633	
減価償却累計額	△ 41,439,887	516,395,746
土地	63,515,000	
減損損失累計額	△ 981,549	62,533,451
建設仮勘定		70,270,238
有形固定資産合計		8,215,156,115
2 無形固定資産		
ソフトウェア		358,948,403
電話加入権		428,000
ソフトウェア仮勘定		47,957,112
無形固定資産合計		407,333,515
3 投資その他の資産		
投資有価証券		55,052,018,597
長期預金		1,700,000,000
敷金保証金		399,922,116
退職給付引当金見返(注)		2,440,748,568
投資その他の資産合計		59,592,689,281
固定資産合計		68,215,178,911
資産合計		85,795,964,030
負債の部		
I 流動負債		
預り補助金等(注)		1,085,803,000
預り寄附金(注)		48,903,204
未払金		3,428,443,741
前受金		34,214,267
預り金		8,085,239
前受収益		9,579,697
リース債務		5,180,163
引当金		
賞与引当金	292,125,423	292,125,423
流動負債合計		4,912,334,734
II 固定負債		
資産見返負債(注)		
資産見返運営費交付金	1,815,116,852	
資産見返寄附金	1,055,823	
建設仮勘定見返運営費交付金	70,270,238	
ソフトウェア仮勘定見返運営費交付金	47,957,112	1,934,400,025
長期預り補助金等(注)		715,965,129
長期リース債務		11,918,264
引当金		
退職給付引当金	2,440,748,568	2,440,748,568
資産除去債務		93,918,300
固定負債合計		5,196,950,286
負債合計		10,109,285,020
純資産の部		
I 資本金		
政府出資金		77,729,095,177
資本金合計		77,729,095,177
II 資本剰余金		
資本剰余金		539,110,363
その他行政コスト累計額(注)	△ 7,816,681,088	
減価償却相当累計額(△)	△ 6,876,672,785	
減損損失相当累計額(△)	△ 1,406,214	
利息費用相当累計額(△)	△ 6,690,787	
除売却差額相当累計額(△)	△ 931,911,302	
民間出えん金(注)	909,040,787	
資本剰余金合計		△ 6,368,529,938
III 利益剰余金		
積立金		1,676,964,843
前中期目標期間繰越積立金(注)		39,905,087
当期末処分利益		2,549,543,520
(うち当期総利益)		2,549,543,520
利益剰余金合計		4,266,413,450
IV 評価・換算差額等		
繰延ヘッジ損益		59,700,321
評価・換算差額等合計		59,700,321
純資産合計		75,686,679,010
負債純資産合計		85,795,964,030

(注)これらは、独立行政法人固有の会計処理に伴う勘定科目である。

損益計算書(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

(単位:円)

経常費用		
文化芸術交流事業費	5,259,733,284	
日本語教育事業費	7,090,192,461	
日本研究・知的交流事業費	1,705,796,197	
調査研究・情報提供等事業費	519,888,602	
在外事業費	3,927,940,096	
文化交流施設等協力事業費	172,586,921	
一般管理費	1,970,996,556	
財務費用	366,213	
経常費用合計		20,647,500,330
経常収益		
運営費交付金収益(注)	17,960,212,998	
運用収益	722,602,992	
受託収入	2,186,646	
寄附金収益(注)		
寄附金収益	16,020,513	
特定寄附金収益	162,950,782	178,971,295
資産見返戻入(注)		
資産見返運営費交付金戻入	343,285,008	
資産見返寄附金戻入	550,522	343,835,530
賞与引当金見返に係る収益(注)		248,828,954
退職給付引当金見返に係る収益(注)		228,027,313
財務収益		
受取利息	98,754	98,754
雑益		
日本語能力試験受験料等収益	675,826,411	
為替差益	2,012,568,410	
その他の雑益	744,754,320	3,433,149,141
経常収益合計		23,117,913,623
経常利益		2,470,413,293
臨時損失		
固定資産除却損	1,544,249	1,544,249
臨時利益		
資産見返運営費交付金戻入(注)	1,347,638	1,347,638
当期純利益		2,470,216,682
前中期目標期間繰越積立金取崩額(注)		79,326,838
当期総利益		2,549,543,520

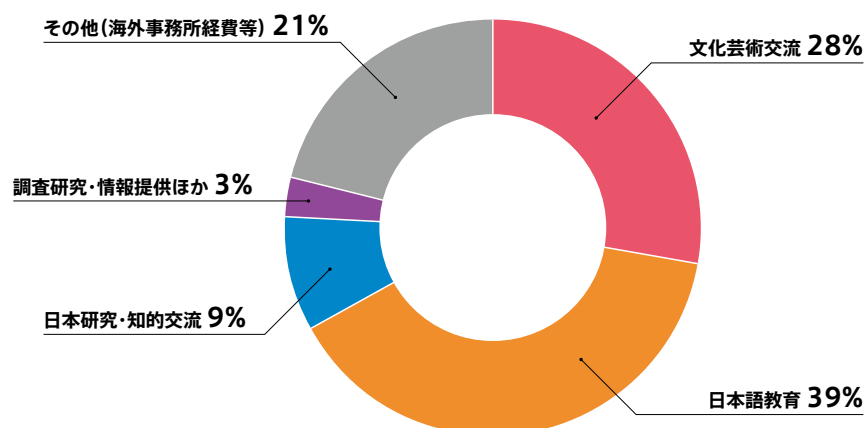
(注)これらは、独立行政法人固有の会計処理に伴う勘定科目である。

利益の処分に関する書類(令和4年6月29日)

(単位:円)

I 当期末処分利益		2,549,543,520
当期総利益	2,549,543,520	
II 積立金振替額		39,905,087
前中期目標期間繰越積立金	39,905,087	
III 利益処分額		
積立金	2,589,448,607	2,589,448,607

2021年度事業分野別支出構成比



世界の拠点紹介

海外事務所

イタリア ローマ日本文化会館

The Japan Cultural Institute in Rome
Address: Via Antonio Gramsci 74, 00197
Roma, Italy
TEL: 39-06-322-4754 FAX: 39-06-322-2165
URL: <https://www.jfroma.it/> (イタリア語・日本語)

ドイツ ケルン日本文化会館

The Japan Cultural Institute in Cologne
Address: Universitätsstraße 98, 50674 Köln,
Bundesrepublik Deutschland (Germany)
TEL: 49-221-9405580 FAX: 49-221-9405589
URL: <https://www.jki.de/> (ドイツ語・日本語)

フランス パリ日本文化会館

The Japan Cultural Institute in Paris
Address: 101 bis, quai Branly, 75740 Paris
Cedex 15, France
TEL: 33-1-44-37-95-00 FAX: 33-1-44-37-95-15
URL: <https://www.mcjp.fr/> (フランス語・日本語)

韓国 ソウル日本文化センター

The Japan Foundation, Seoul
Address: Office Bldg. 2F&4F, Twin City
Namsan, 366 Hangang-daero, Yongsan-gu,
Seoul 04323 Korea
TEL: 82-2-397-2820 FAX: 82-2-397-2830
URL: <https://www.jpf.or.kr/> (韓国語・日本語)

中国 北京日本文化センター

The Japan Foundation, Beijing
Address: #301, 3F SK Tower, No.6 Jia
Jiangoumenwai Avenue, Chaoyang District,
Beijing, 100022 China
TEL: 86-10-8567-9511 FAX: 86-10-8567-9075
URL: <https://www.jpfbj.cn/> (中国語・日本語)

インドネシア ジャカルタ日本文化センター

The Japan Foundation, Jakarta
Address: Summitmas II Lt. 1,2, Jl. Jenderal
Sudirman, Kav. 61-62 Jakarta 12190, Indonesia
TEL: 62-21-520-1266 FAX: 62-21-525-1750
URL: <https://www.jpf.or.id/>
(インドネシア語・英語・日本語)

タイ バンコク日本文化センター

The Japan Foundation, Bangkok
Address: 10th Fl. Serm-Mit Tower, 159 Asoke-
Montri Road, Bangkok 10110 Thailand
TEL: 66-2-260-8560
URL: <https://www.jfbkk.or.th/> (タイ語・英語・日本語)

フィリピン マニラ日本文化センター

The Japan Foundation, Manila
Address: 23F, Pacific Star Building, Sen. Gil
Puyat Avenue, corner Makati Avenue, Makati
City, 1226, Philippines
TEL: 63-2-8811-6155
URL: <https://www.jfmo.org.ph/> (英語)

マレーシア クアラルンプール日本文化センター

The Japan Foundation, Kuala Lumpur
Address: 18th Floor, Northpoint Block B,
Mid-Valley City, No.1, Medan Syed Putra,
59200, Kuala Lumpur, Malaysia
TEL: 60-3-2284-6228 FAX: 60-3-2287-5859
URL: <https://www.jfkl.org.my/> (英語)

ミャンマー ヤンゴン日本文化センター

The Japan Foundation, Yangon
Address: No.70 Nat Mauk Lane (1), Bahan
Township, Yangon Myanmar
TEL: 95-1-430-920/1 FAX: 95-1-430-922
URL: <https://yg.jpf.go.jp/> (ミャンマー語・英語)

インド ニューデリー日本文化センター

The Japan Foundation, New Delhi
Address: 5-A, Ring Road Lajpat Nagar-IV,
New Delhi, 110024, India
TEL: 91-11-4606-5769/4558-8698
URL: <https://www.jfindia.org.in/> (英語)

オーストラリア シドニー日本文化センター

The Japan Foundation, Sydney
Address: Level 4, Central Park, 28 Broadway,
Chippendale NSW 2008 Australia
TEL: 61-2-8239-0055
URL: <https://www.jpf.org.au/> (英語)

カナダ トロント日本文化センター

The Japan Foundation, Toronto
Address: The Japan Foundation, Toronto
2 Bloor Street East, Suite 300, PO Box 130,
Toronto, Ontario, Canada M4W 1A8
TEL: 1-416-966-1600 FAX: 1-416-966-9773
URL: <https://www.jftor.org/> (英語)

米国 ニューヨーク日本文化センター

The Japan Foundation, New York
Address: 1700 Broadway, 15th Floor, New
York, NY 10019, U.S.A.
TEL: 1-212-489-0299 FAX: 1-212-489-0409
URL: <https://www.jfny.org/> (英語)

米国 ロサンゼルス日本文化センター

The Japan Foundation, Los Angeles
Address: 5700 Wilshire Boulevard, Suite 100
Los Angeles, CA 90036, U.S.A.
TEL: 1-323-761-7510
URL: <https://www.jflalc.org/> (英語)

メキシコ メキシコ日本文化センター

The Japan Foundation, Mexico
Address: Av. Ejército Nacional #418 Int. 207, Col.
Polanco V sección, C.P. 11560 CDMX México
TEL: 52-55-5254-8506
URL: <https://www.fjmx.org/> (スペイン語)

ブラジル サンパウロ日本文化センター

The Japan Foundation, São Paulo
Address: Av. Paulista, 52 – 3º andar
Bela Vista, CEP 01310-900, São Paulo – SP
TEL: 55-11-3141-0843/55-11-3141-0110
URL: <https://fjsp.org.br/> (ポルトガル語)

英国 ロンドン日本文化センター

The Japan Foundation, London
Address: 101-111 Kensington High Street,
London, W8 5SA, U. K.
TEL: 44-20-7492-6570
URL: <https://www.jpf.org.uk/> (英語)

スペイン マドリッド日本文化センター

The Japan Foundation, Madrid
Address: 2a planta del Palacio Cañete Calle
Mayor, 69 28013 Madrid
TEL: 34-91-310-1538 FAX: 34-91-308-7314
URL: <https://www.fundacionjapon.es/>
(スペイン語・日本語)

ハンガリー ブダペスト日本文化センター

The Japan Foundation, Budapest
Address: Oktogon Haz 2F, 1062 Budapest,
Aradi utca 8-10, Hungary
TEL: 36-1-214-0775 FAX: 36-1-214-0778
URL: <https://www.japanalapitvany.hu/>
(ハンガリー語・日本語・英語)

ロシア 全ロシア国立外国文献図書館

「国際交流基金」文化事業部
(モスクワ日本文化センター)
The Japanese Culture Department
"Japan Foundation" of the All-Russia State
Library for Foreign Literature
Address: 4th Floor, Nikoloyamskaya Street,
1, Moscow, Russian Federation, 109240
TEL: 7-495-626-5583
URL: <https://www.jpfmw.ru/> (ロシア語・日本語)

エジプト カイロ日本文化センター

The Japan Foundation, Cairo
Address: 5th Floor, Cairo Center Building, 106
Qasr Al-Aini Street, Garden City, Cairo, Egypt
TEL: 20-2-2794-9431/20-2-2794-9719

ベトナム ベトナム日本文化交流センター

The Japan Foundation Center for
Cultural Exchange in Vietnam
Address: No. 27 Quang Trung Street, Hoan
Kiem District, Hanoi, Vietnam
TEL: 84-24-3944-7419 FAX: 84-24-3944-7418
URL: <https://jpf.org.vn/> (ベトナム語・日本語)

カンボジア プノンペン連絡事務所

The Japan Foundation, Phnom Penh Liaison Office
Address: #22, Ground Floor of Hotel
Cambodiana, 313 Sisowath Quay, Phnom
Penh, Kingdom of Cambodia
TEL: 855-23-21-4581
URL: <https://jfphn.org/> (クメール語・日本語)

ラオス ビエンチャン連絡事務所

The Japan Foundation, Vientiane Liaison Office
Address: Allianz Building 3rd Floor, 33 Lane
Xang Avenue, Ban Hatsady, Chantabouly
District, Vientiane, Lao PDR
TEL: 856-21-240-280
URL: <https://jfvcvt.la/> (ラオス語・日本語)

本部・附属機関・支部

国際交流基金本部

〒160-0004 東京都新宿区四谷 1-6-4
TEL: 03-5369-6075 FAX: 03-5369-6044
URL: <https://www.jpf.go.jp>

TEL: 03-5369-6086 FAX: 03-5369-6044
URL: <https://www.jpf.go.jp/j/about/jfic/lib/index.html>

日本語国際センター

〒330-0074 埼玉県さいたま市浦和区北浦和 5-6-36
TEL: 048-834-1180(代表) FAX: 048-834-1170
URL: <https://www.jpf.go.jp/j/urawa/>

TEL: 048-834-1185 FAX: 048-830-1588
URL: https://www.jpf.go.jp/j/urawa/j_library/j_library.html

関西国際センター

〒598-0093 大阪府泉南郡田尻町りんくうポート北 3-14
TEL: 072-490-2600(代表) FAX: 072-490-2800
URL: <https://www.jpf.go.jp/j/kansai>

TEL: 072-490-2605 FAX: 072-490-2805
URL: <https://www.jpf.go.jp/j/kansai>

京都支部

〒606-8436 京都府京都市左京区粟田口鳥居町
2-1 京都市国際交流会館 3 階
TEL: 075-762-1136 FAX: 075-762-1137
URL: <https://www.jpf.go.jp/j/world/kyoto.html>

諮問委員会等

* 2022年3月31日現在

日本研究米諮問委員会

American Advisory Committee for Japanese Studies

- Michael Bourdaghs (シカゴ大学 文学)
- Lee Branstetter (カーネギーメロン大学 経済学)
- Julie Nelson Davis (ペンシルバニア大学 美術史)
- Alisa Freedman (オレゴン大学 近代日本文学)
- Andrew Gordon (ハーバード大学 歴史学)
- Eiko Ikegami (ニュースクール大学 社会学)
- Patricia Maclachlan (テキサス大学オースティン校 政治学)
- Laura Miller (ミズーリ大学セントルイス校 人類学)
- Mari Noda (オハイオ州立大学 言語学/言語教育学)
- Robert J. Pekkanen (ワシントン大学 政治学/社会学)
- Morgan Pitelka (ノースカロライナ大学チャペルヒル校 歴史学)
- Doug Slaymaker (ケンタッキー大学 日本文学)
- Kären Wigen (スタンフォード大学 地理学/歴史学)
- Duncan Ryuken Williams (南カリフォルニア大学 宗教学)
- Christine Yano (ハワイ大学マノア校 人類学/カルチュラル・スタディーズ)

パリ日本文化会館運営審議会

フランス側委員

- Jacques Aschenbroich (ヴァレオ社CEO)
- Estelle Brachlianoff (ヴェオリア社最高執行責任者)
- Christian Sautter (社会科学高等研究院日仏財団副理事長)
- Louis Schweitzer (日仏パートナーシップ欧州・外務大臣特別代表)
- Jean-Robert Pitte (フランス地理学会会長)
- Philippe Faure (元駐日フランス大使)
- Diane de Selliers (ディアーン・ド・セリエ出版代表)
- Michael Lucken (国立東洋言語文化学院INALCO教授)
- Hortense Archambault (セーヌ・サン・ドニ県文化会館館長)

日本側委員

- 松浦 晃一郎 (元ユネスコ事務局長)
- 伊東 順二 (美術評論家/東京藝術大学社会連携センター特任教授)
- 荻野 アンナ (作家/慶應義塾大学文学部教授)
- 柏倉 康夫 (放送大学名誉教授)
- 大八木 成男 (帯人株式会社相談役)
- 酒井 忠康 (世田谷美術館館長)
- 辻原 登 (作家/神奈川近代文学館長)
- 西垣 通 (東京大学名誉教授/東京経済大学教授)
- 早間 玲子 (建築家)
- 堀場 厚 (株式会社堀場製作所代表取締役会長兼グループCEO)

国際交流基金アジアセンター事業諮問委員会

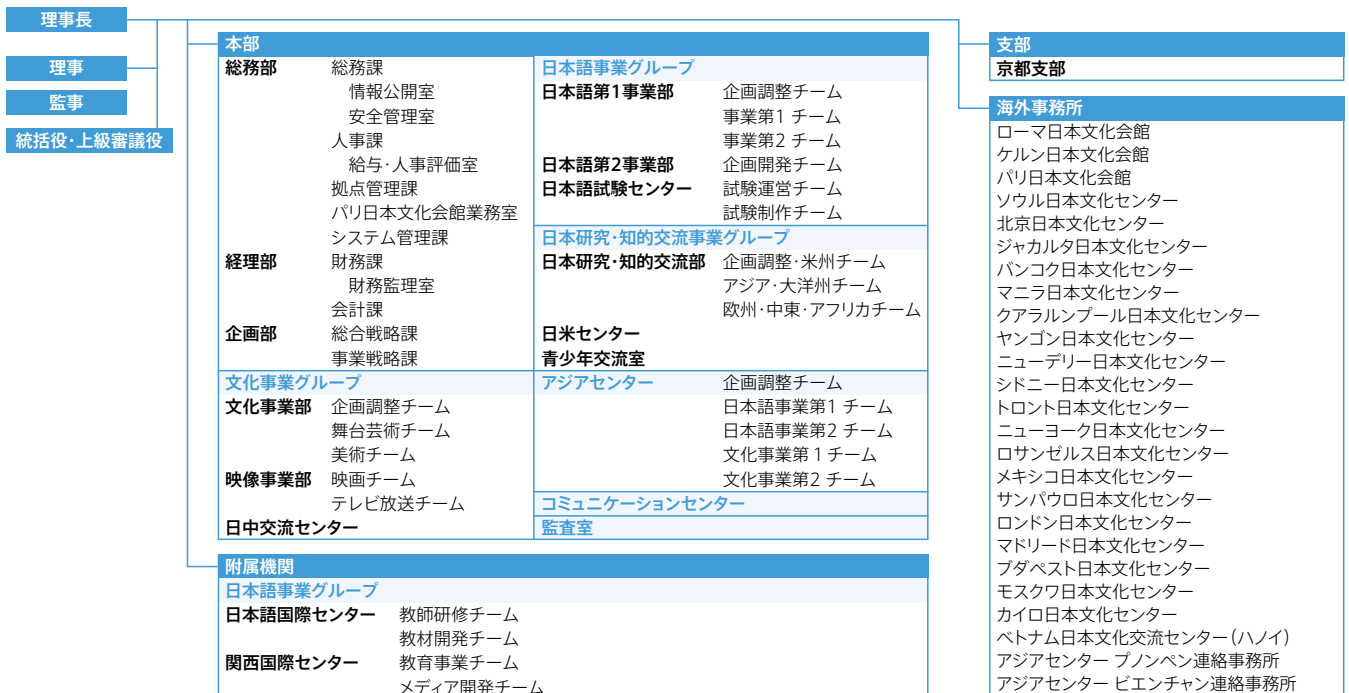
日本側委員

- 石井 恵理子 (東京女子大学教授、日本語教育学会会長)
- 井上 弘 (株式会社TBS テレビ相談役)
- 猪子 寿之 (チームラボ株式会社代表取締役)
- 加藤 雅也 (俳優)
- コシノ ジュンコ (デザイナー)
- 迫本 淳一 (松竹株式会社代表取締役社長)
- 知花 くらら (モデル/国連世界食糧計画(WFP)日本大使)
- 鳥井 信吾 (サントリーホールディングス株式会社代表取締役副会長)
- 長谷川 三千子 (埼玉大学名誉教授)
- 宮廻 正明 (東京藝術大学名誉教授/日本画家)
- 山内 昌之 (座長) (東京大学名誉教授)

ASEAN側委員

- Dato Paduka Hamdillah H A Wahab (ブルネイ)
(ブルネイ日本友好協会(BJFA)会長)
- Pou Sothirak (カンボジア)
(国立カンボジア平和協力研究所専務理事/カンボジア王国政府顧問)
- Riri Riza (インドネシア) (映画監督)
- Phonethepvixay Saythilath (ラオス) (歌手/音楽会社経営)
- Datuk Lat (マレーシア) (漫画家)
- Lahpai Seng Raw (ミャンマー) (メッタ開発財団創設者・前代表)
- Ambeth R. Ocampo (フィリピン) (アテネオ・デ・マニラ大学歴史学科 教授)
- Goh Ching Lee (シンガポール) (カルチャーリンク創設者・芸術監督)
- Kitti Prasirtsuk (タイ) (タマサート大学政治学部教授)
- Nguyen Van Chinh (ベトナム)
(ハノイ国家大学人文社会科学大学人類学部学部長 准教授)

組織図



(2022年3月31日時点・組織改編前)

ウェブサイト/ソーシャルメディアのご案内

ウェブサイト

国際交流基金ウェブサイト <https://www.jpjf.go.jp/>

JFの事業、イベント等の最新情報、公募プログラムの募集情報、便利な日本語教材、過去に行った調査報告、海外事務所のウェブサイトへのリンク等、さまざまな情報を発信しています。



オンライン・コンテンツ(動画、読み物等)

オンラインで楽しめる公演や展示、講演会・セミナー等の動画や、文化交流の最前線に立つ人々のインタビューや寄稿等のコンテンツを提供しています。

- JF digital collection https://www.jpjf.go.jp/j/project/digital_collection/
- ウェブマガジン「をちこち」 <https://www.wochikochi.jp/>
- 舞台芸術情報 "Performing Arts Network Japan" <https://performingarts.jpjf.go.jp>
- 日本映画発信ウェブサイト「JFF+」 <https://jff.jpjf.go.jp/ja/>
- 日中21世紀交流事業(心連心ウェブサイト) <https://xinlianxin.jpjf.go.jp/>
- 日本語教育オンライン事業 <https://www.jpjf.go.jp/j/project/japanese/survey/online/>
- 日米草の根交流コーディネーター派遣(JOI)プログラム <https://www.joiprogram.jp/>

日本語教育関係の情報

【試験】日本語学習者の日本語能力評価のための試験に関する情報を提供しています。

- 日本語の試験を受ける <https://www.jpjf.go.jp/j/project/japanese/test/>

【日本語教師支援】日本語教師の育成、日本語教材情報、授業のアイデア、海外の日本語教育の現場の声等の情報を提供しています。

- 日本語を教える <https://www.jpjf.go.jp/j/project/japanese/teach/>

【日本語学習者支援】日本語学習の教材や、オンラインで学べるeラーニングサイト、映像・ウェブ教材等を提供しています。

- 日本語を学ぶ <https://www.jpjf.go.jp/j/project/japanese/education/>

【日本語教育事情】全世界を対象とする「日本語教育機関調査」の報告書や、各国の日本語教育事情等の情報を提供しています。

- 日本語教育について調べる <https://www.jpjf.go.jp/j/project/japanese/survey/>

【日本語パートナーズ派遣事業】

アジアの中学・高校などで日本語を教える教師やその生徒のパートナーとして、授業のアシスタントや、日本文化の紹介をする人を派遣しています。

- 日本語パートナーズ <https://asiawa.jpjf.go.jp/partners/>

資料/リソース/データベース

【翻訳・出版】外国語に翻訳されている日本の文学作品や、翻訳出版にお薦めの図書に関する情報を提供しています。

- 日本文学翻訳作品データベース <https://jltrans-opac.jpjf.go.jp/>
- 翻訳推薦著作リスト "Worth Sharing" <https://www.worthsharing.jpjf.go.jp/>
- 翻訳推薦著作リスト "Lifelong Favorites" (児童書版) <https://www.worthsharing.jpjf.go.jp/lifelong-favorites/>

【映画】約6200本以上の日本映画の情報を、日本語・英語で発信しています。

- 日本映画データベース(JFDB) <https://jfdb.jp/>

ソーシャル・メディア



- YouTube チャンネル <https://www.youtube.com/user/thejapanfoundation>



- 国際交流基金公式Facebook <https://www.facebook.com/TheJapanfoundation>
- 日中21世紀交流事業公式Facebook <https://www.facebook.com/JF.Xinlianxin/>
- 日本語パートナーズ派遣事業 公式 Facebook <https://www.facebook.com/jfnihongopartners/>



- 国際交流基金公式 Twitter <https://twitter.com/japanfoundation>
- 日本語パートナーズ派遣事業 公式Twitter <https://twitter.com/NihongoPartners>



- 日中21世紀交流事業公式Instagram https://www.instagram.com/jf_xinlianxin/

国際交流基金
JAPAN FOUNDATION



国際交流基金 令和3(2021)年度 年報

2022年9月発行

編著・発行／独立行政法人国際交流基金 広報部

〒160-0004 東京都新宿区四谷1-6-4 TEL.03-5369-6075 FAX.03-5369-6044

編集・制作／株式会社アークコミュニケーションズ